

資-4. 意向調査結果の整理

4 意向調査結果の整理

4-1 市民アンケート調査

(1) 調査計画

都市計画マスタープランを策定するにあたり、地域住民のまちづくりに対する意向等を把握するため、下記の要領でアンケート調査を実施しました。

表 4-1-1 調査計画

項目	内容
調査期間	平成19年10月1日～30日
対象者	館山市内在住の市民
配布・回収方法	市発行の広報誌(だん暖たてやま)に調査票を折込み、全世帯(21,000世帯)に配布。回答後に返送。
調査内容	まちづくりに係る設問を主体とし、現状の住民意識を分析

(2) 調査結果の概要

以下、調査結果の概要を示します。

1) 回収率及び回答者の属性

回答率及び回答者の属性は以下の通りです。

表 4-1-2 回答率及び回答者の属性

区分	属性状況
回答数	1402
回答率	6.70%
性別	◇男性が約46%、女性が約54%
年齢	◇回答者の年齢構成は、40歳以上が75%以上を占めている
住まいの地区	◇那古・船形地区:約18% 北条地区:約29% 館山地区:約27% 豊房・館野・九重地区:約13% 西岬・神戸・富崎地区:約13%
在住年数	◇回答者の在住年数は、『20年以上』が約74%と大半を占めている
職業	◇無職が最も多く約32%、次いで専業主婦が約20%、会社員が約14%となっている

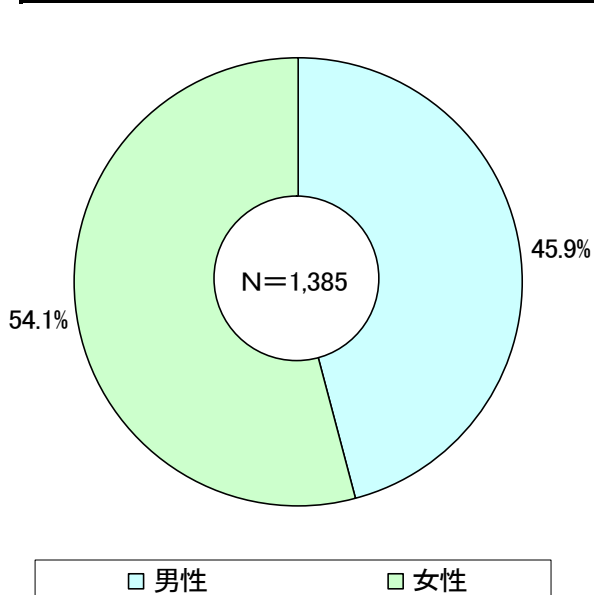


図 4-1-1 性別

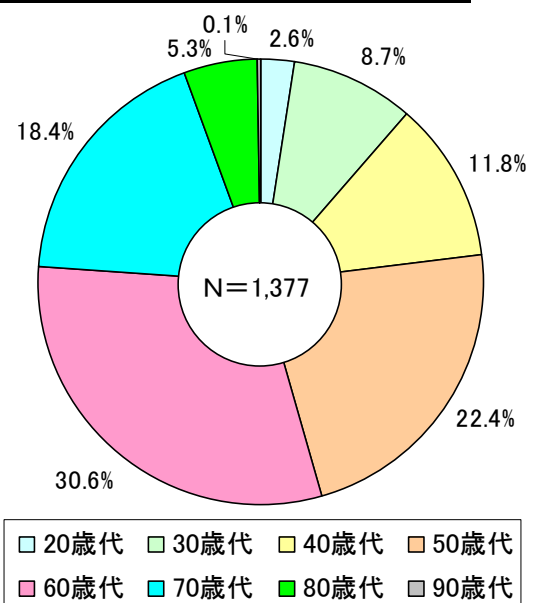


図 4-1-2 年齢構成

4 意向調査結果の整理

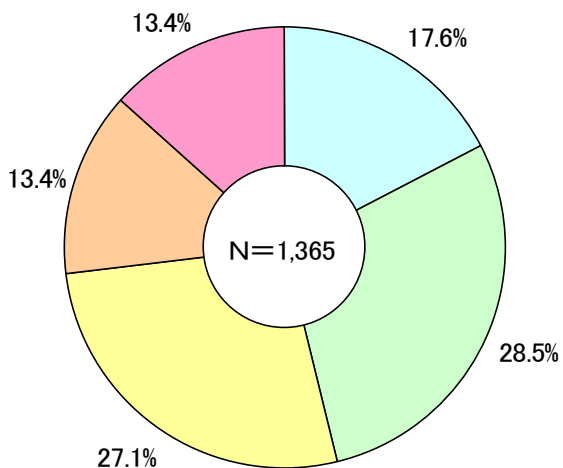


図 4-1-3 住まいの地区

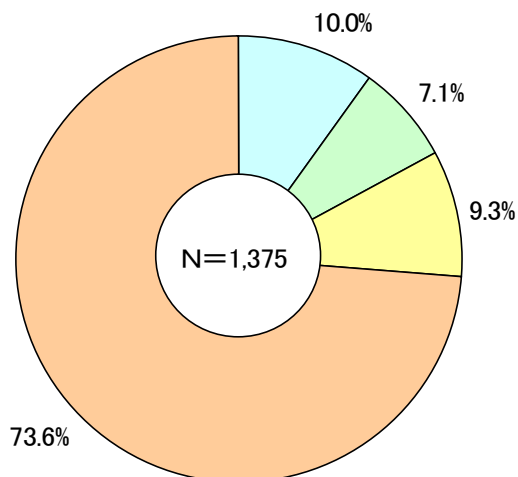


図 4-1-4 在住年数

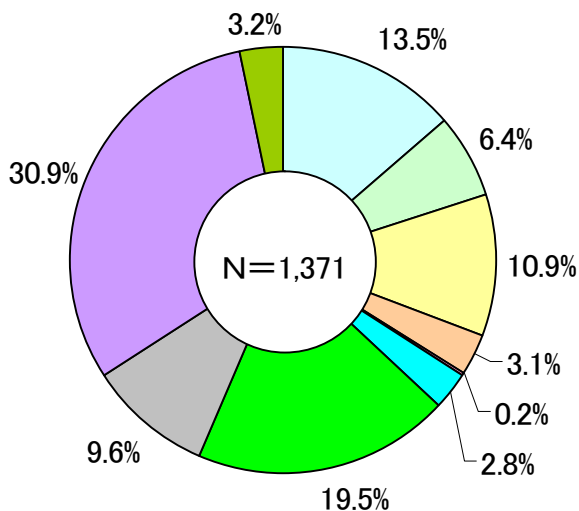


図 4-1-5 職業

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合があります

(3) 都市全体に対する意向調査結果

1) 日常の生活行動

・買い物について

- 『近所の商店』や『市内の大型商業施設』に買い物をする人が半数近くを占めている
- 『近所の商店』であっても40%以上の方が車で移動しており、主要な交通手段は車であるが、将来的に運転できなくなった時の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえる
- 年齢があがり車を運転できなくなっても、公共交通は利用されづらいことがうかがえる
- 『近所の商店』『市内の大型商業施設』『市街の商店』では30%以上の方が満足しているのに対し、『館山駅を中心とした商店街』では30%以上の方が不満を感じている

頻度に関しては、『自分の家の近所の商店』及び『館山市内にある国道沿い等の大型商業施設』においていずれも週に1度以上買い物をする人が60%以上となっており、館山駅を中心とした商店街や市外の商店での買い物頻度は低いことがうかがえます。

交通手段に関しては、いずれの商店においても車(自分の運転)で移動する人が多く、特に館山市内にある国道沿い等の大型商業施設においては70%以上を占めています。

年齢階層別の交通手段を見ると、いずれの年代においても『車(自分の運転で)』の割合が多く、公共交通(電車・バス)の割合は少なくなっています。また、年代があがるにつれて『車(自分の運転で)』から他の交通手段へ転換していますが、公共交通(電車・バス)の増加率は少なくなっています。

満足度に関しては、館山市内にある国道沿い等の大型商業施設において約60%の人が大変満足・満足だと感じています。次いで自分の家の近所の商店で約40%となっています。

自由意見では、総意見のうち約15%の人が『不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安等』と答えており、今後の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえます。

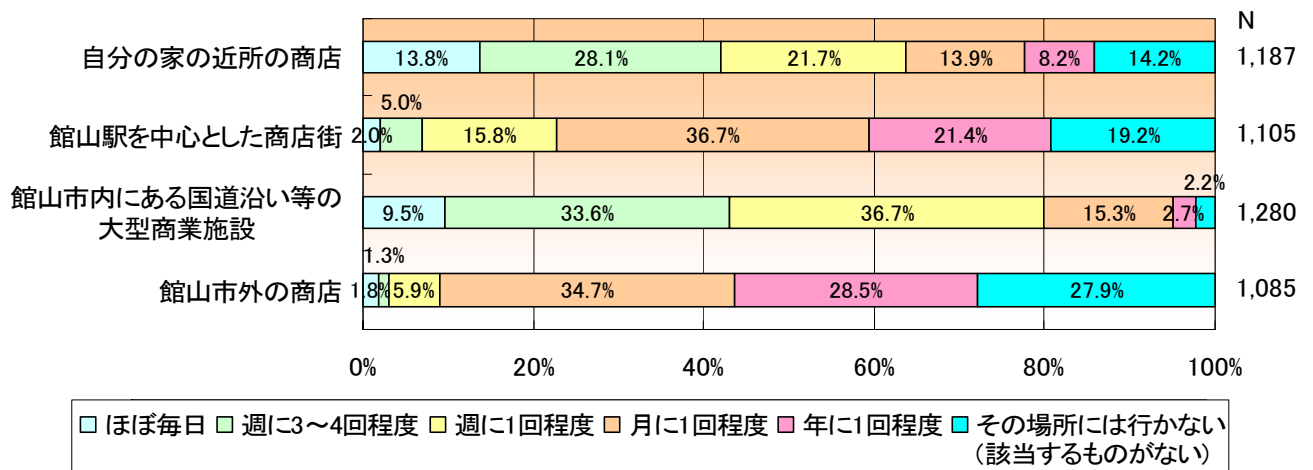


図4-1-6 頻度

4 意向調査結果の整理

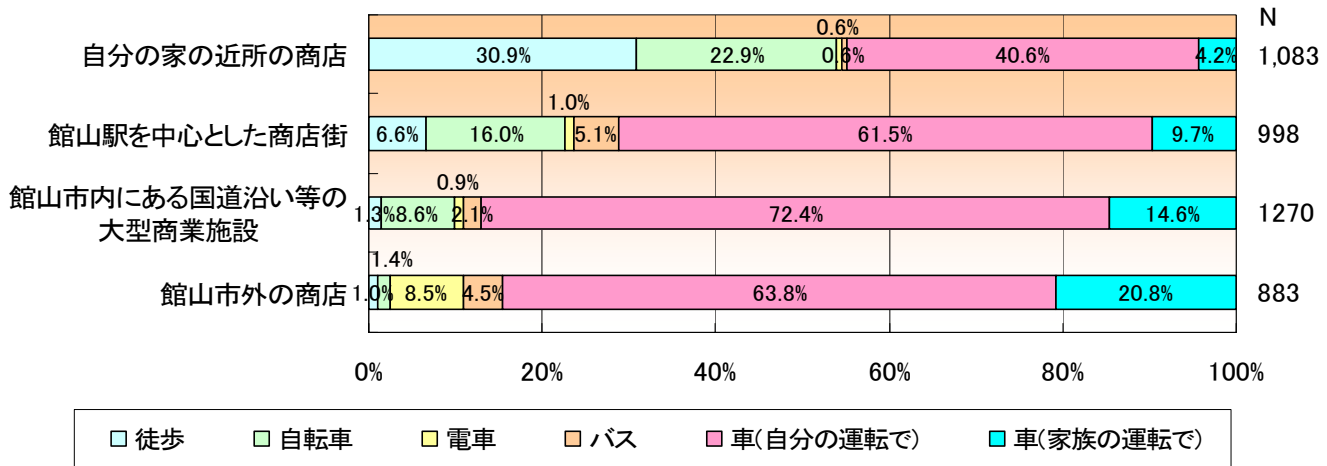


図 4-1-7 交通手段

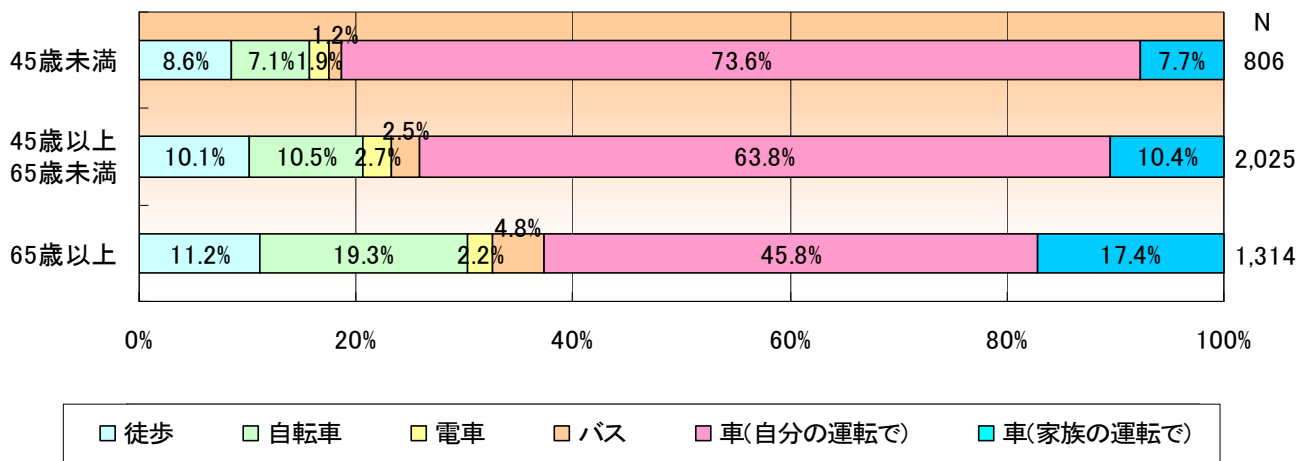


図 4-1-8 年齢階層別交通手段

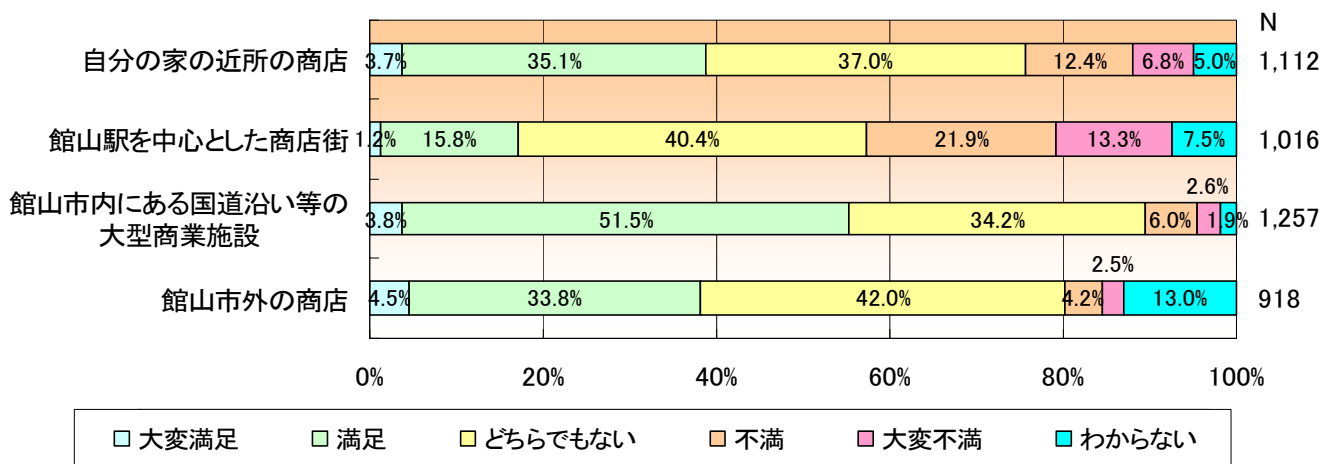


図 4-1-9 満足度

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合がある

表 4 - 1 - 3 自由意見

	出された意見(総意見:560)	意見数
1	不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安 等	84(15.0%)
2	近くに商店がない	66(11.8%)
3	館山駅周辺の商店街の活性化	55(9.8%)
4	地元商店に駐車場がない(館山駅周辺商店街を含む)	53(9.5%)
5	買い物に歩きや自転車で行ける安全な道路	21(3.8%)
6	大型商業施設が便利	18(3.2%)
7	現状で満足している	11(2.0%)
8	地元商店の活性化	10(1.8%)
9	地産地消、物産品の販売施設整備	7(1.2%)
9	商店の品数が少ない	7(1.2%)
その他 (一部 紹介)	大型店舗等集客施設の接続区域は、現道の渋滞対策として付加車線の整備が必要	
	住民だけの満足ではなく、観光客にも喜ばれる店をめざすこと	
	営業時間がもっと長いと良い	
	インターネットショッピングを利用	
	これ以上の発展は必要ない	

4 意向調査結果の整理

・病院への通院等について

- 『最寄の病院』を含め、いずれの病院においても主要な交通手段は車であるが、将来的に運転できなくなった時の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえる
- 65 歳以上では公共交通(電車・バス)の増加率が高く、使用する割合が多くなる
- いずれの病院においても 30%以上の人々が満足しており、特に『市外の病院』では 40%以上となっている

頻度に関しては、いずれの施設においても月に 1 回以下の人々が大半を占めています。

交通手段に関しては、いずれの施設においても車(自分の運転)が大半を占めています。また、自分の家の最寄の病院では、徒歩や自転車を移動手段としている人が 30%以上となっています。

年齢階層別の交通手段を見ると、いずれの年代においても『車(自分の運転で)』の割合が多く、公共交通(電車・バス)の割合が少なくなっています。また、年代があがるにつれて『車(自分の運転で)』から他の交通手段へ転換しており、特に 65 歳以上では公共交通の増加率が高くなっています。

満足度に関しては、いずれの施設においても 25%以上の人々が大変満足・満足だと感じています。

自由意見では、総意見のうち約 21%の人が『安房医師会病院の機能充実』と答えています。次いで、約 9%の人が『不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安 等』と答えており、今後の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえます。

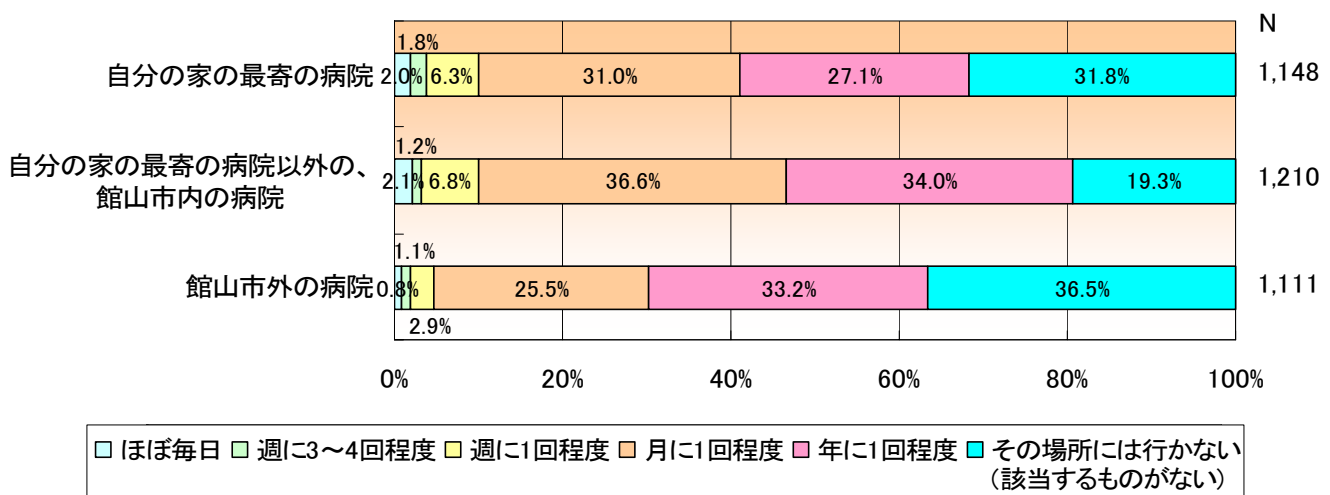


図 4 - 1 - 10 頻度

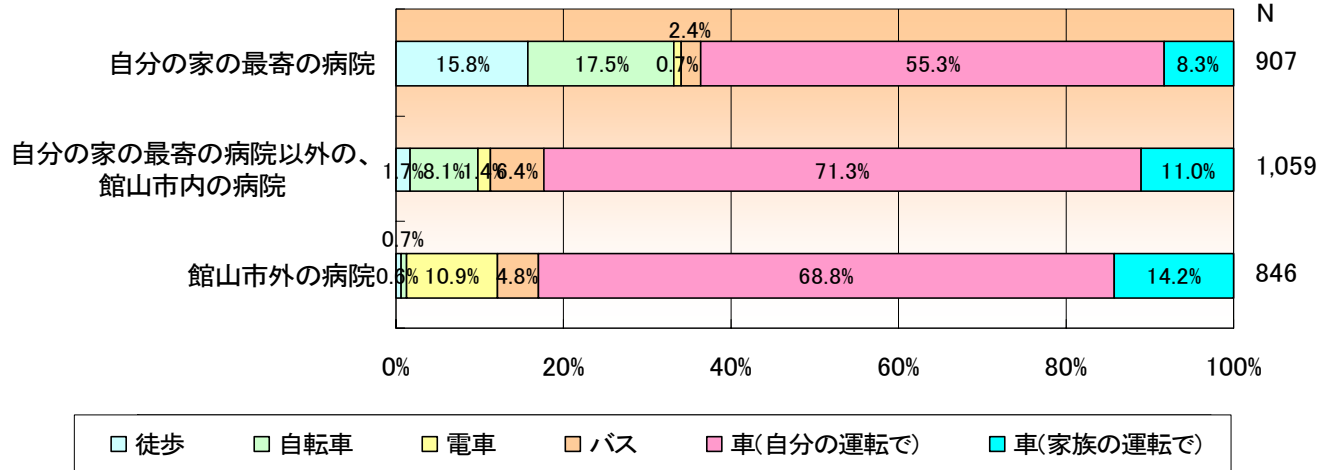


図 4-1-11 交通手段

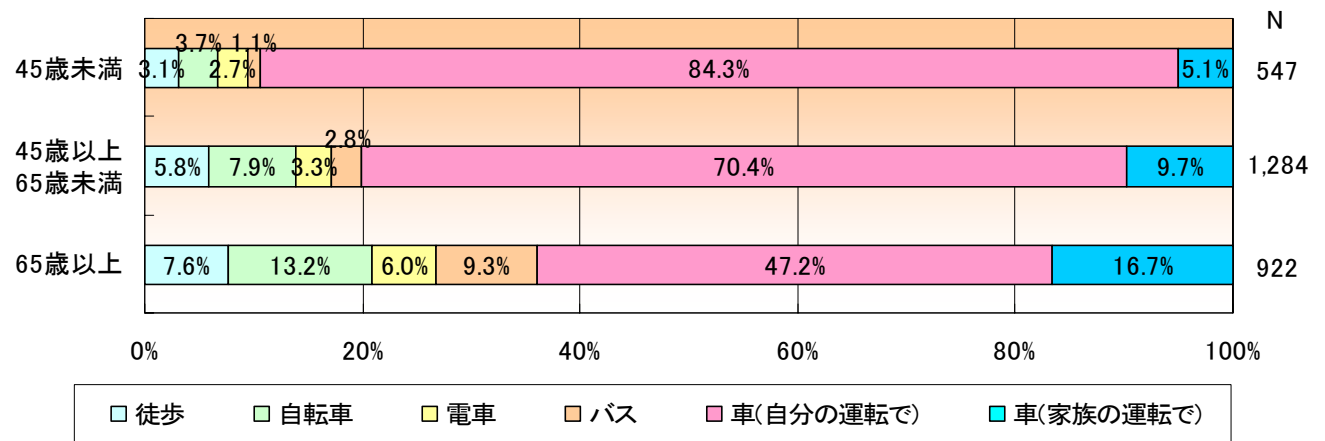


図 4-1-12 年齢階層別交通手段

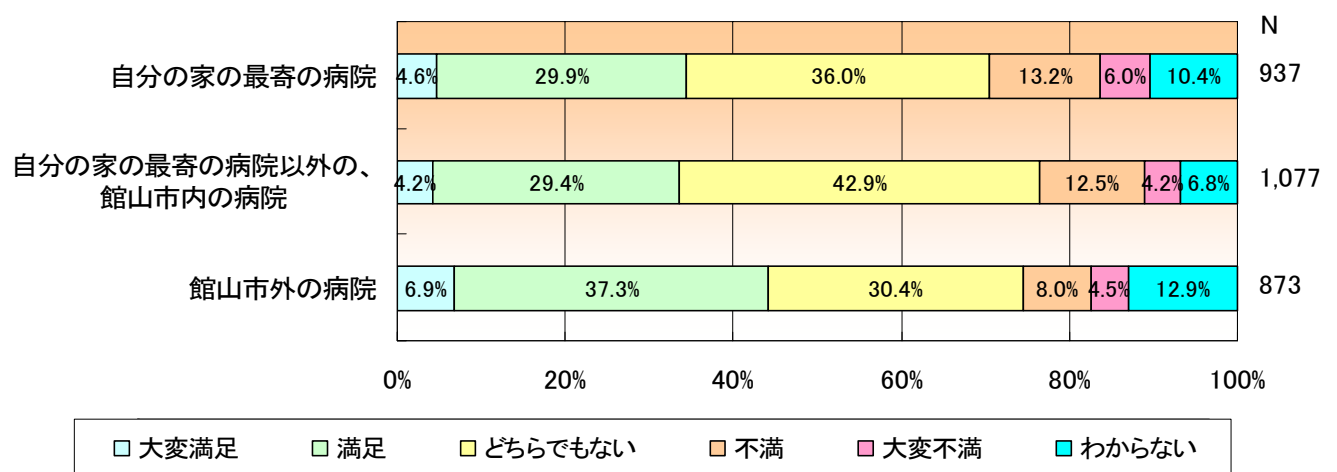


図 4-1-13 満足度

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合がある

表4-1-4 自由意見

	出された意見(総意見:605)	意見数
1	安房医師会病院の機能充実	124(20.5%)
2	不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安 等	55(9.1%)
3	総合病院の設置	40(6.6%)
4	近くに病院がない	25(4.1%)
5	救急医療体制の充実化	24(4.0%)
6	小児科院が少ない	22(3.6%)
7	安心して利用できる病院がない	20(3.3%)
8	市外の病院を利用する	9(1.5%)
9	信頼できる医師がいない	5(0.8%)
10	現状で満足している	4(0.6%)
その他 (一部 紹介)	通院していない	
	病院周辺のバリアフリー対策を考慮した歩車道の整備	
	待ち時間が長い	
	駐車場がない	
	産婦人科の設置	

・余暇活動について

- いずれの施設においても利用頻度は低く、その場所にはいかない(該当するものがない)と回答した人が30%以上となっている
- 『最寄の施設』を含め、いずれの施設においても主要な交通手段は車であるが、将来的に運転できなくなった時の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえる
- 年齢があがり車を運転できなくなっても、公共交通は利用されづらいことがうかがえる
- いずれの施設においても30%以上の人が満足している
- 『スポーツ施設やレクリエーション施設』等の余暇活動を過ごすための施設整備を要望する意見が出されている

頻度に関しては、いずれの施設においても約70%の人が月に1回以下となっています。

交通手段に関しては、いずれの施設においても約50%以上の人が車(自分の運転)となっています。

年齢階層別の交通手段を見ると、いずれの年代においても『車(自分の運転で)』の割合が多く、公共交通(電車・バス)の割合が少なくなっています。また、年代があがるにつれて『車(自分の運転で)』から他の交通手段へ転換していますが、公共交通(電車・バス)の増加率は少なくなっています。

満足度に関しては、いずれの施設においても約30%以上の人が大変満足・満足だと感じている。

自由意見では、上位5意見のうち4意見が『楽しめる施設がない』や『スポーツ施設やコミュニティ施設があれば良い』等といった、余暇活動ができる施設を望む回答でした。また、総意見のうち約4%ではあるが、『不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安 等』と答えており、今後の交通手段に対する不安を感じていることがうかがえます。

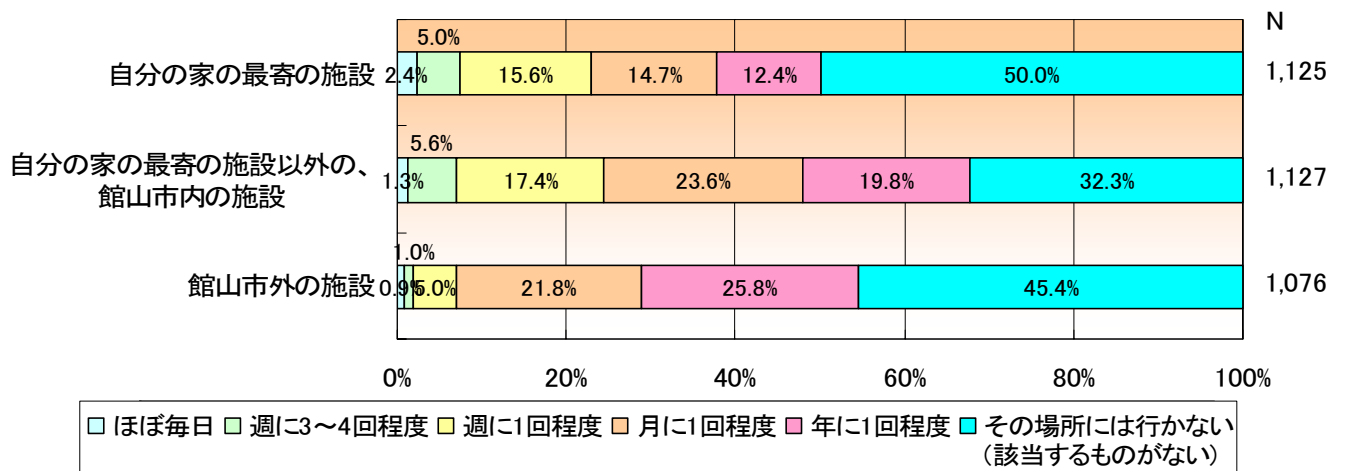


図4-1-14 頻度

4 意向調査結果の整理

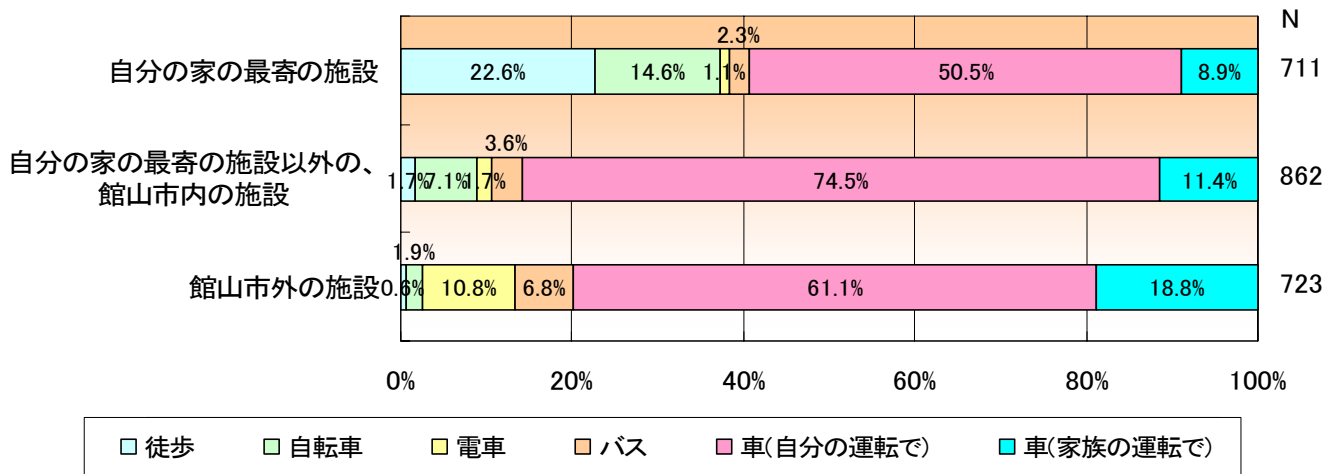


図 4-1-15 交通手段

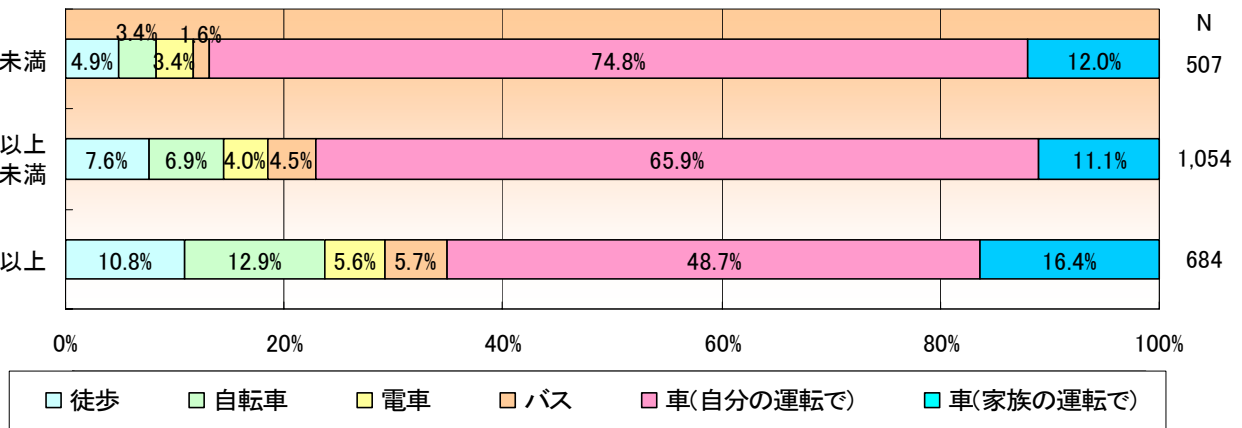


図 4-1-16 年齢階層別交通手段

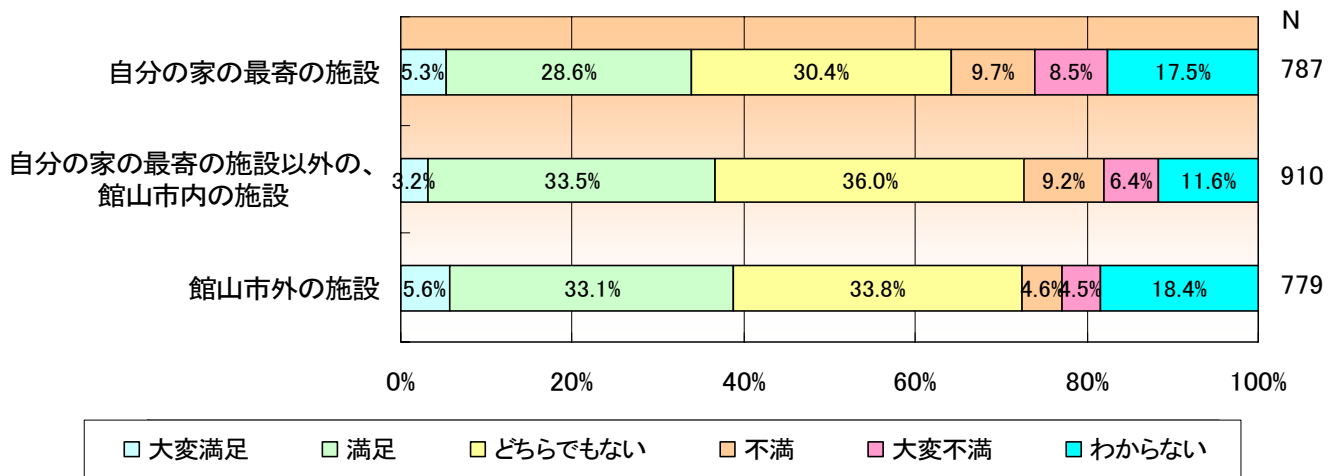


図 4-1-17 満足度

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合がある

表4-1-5 自由意見

	出された意見(総意見:442)	意見数
1	楽しめる施設がない	70(15.8%)
2	スポーツ施設やコミュニティ施設があれば良い	44(10.0%)
3	公園をもっと増やしてほしい	26(5.9%)
4	映画館の設置	23(5.2%)
5	不便なバス、将来的に車を運転できなくなった後の移動手段に対する不安 等	19(4.3%)
6	サークル活動を実施している	14(3.2%)
7	散歩をするための歩道の整備	7(1.6%)
8	自宅で過ごす	3(0.7%)
9	現状で満足している	2(0.5%)
9	駐車場がない	2(0.5%)
その他 (一部 紹介)	イベント重視の施策に疑問を感じる	
	余暇活動の資金がない	
	子供と一緒に過ごせる施設が必要	
	文化的な催しが少ない	
	家庭菜園	

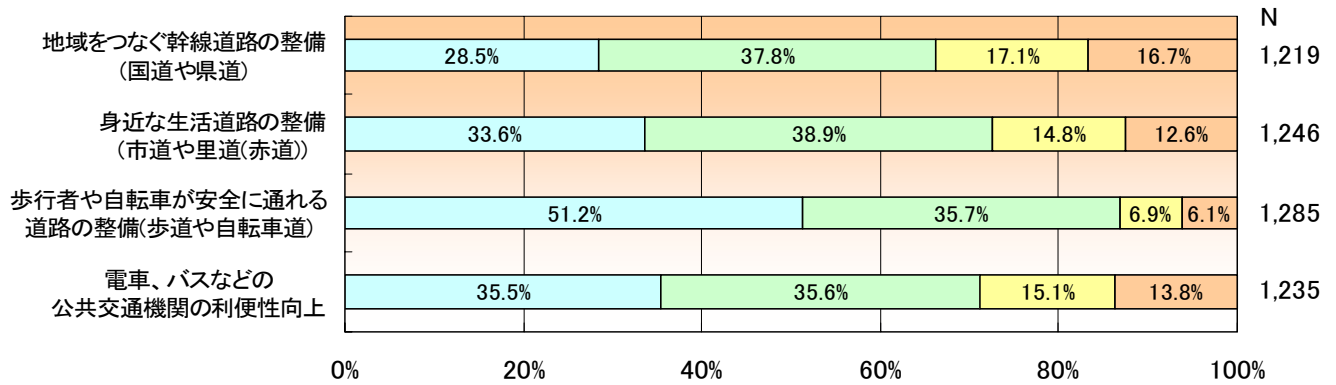
2) 施設整備に関して

- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる

道路・交通施設に関しては、『歩行者や自転車が安全に通れる道路の整備』をすぐに整備・対応すべきだとする人が約 50%となっています。また他の施設においては、なるべく早く整備・対応すべきまでを含めるといずれも 60%以上となっており、本市における道路・交通施設においては十分な満足を得られていないことがうかがえます。

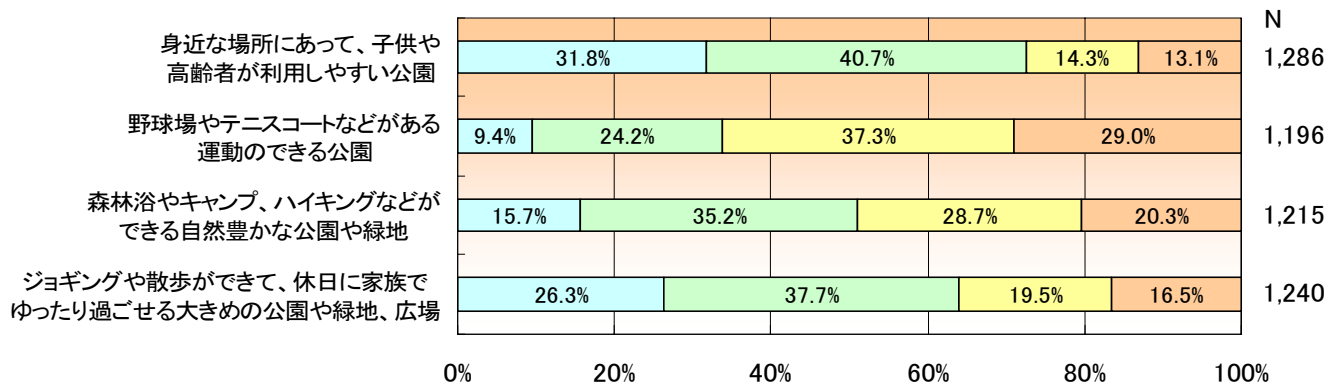
公園・緑地に関しては、すぐに整備・対応すべきだとする施設はないものの、なるべく早く整備・対応すべきまでを含めると、『身近な場所にあつて、子供や高齢者が利用しやすい公園』や『ジョギングや散歩ができて、休日に家族でゆったり過ごせる大き目の公園や緑地、広場』が 60%以上となっています。

防災・生活環境に関しては、『救急医療の充実』をすぐに対応すべきだとする人が約 75%となっており、早急な整備が望まれていることがうかがえます。また、なるべく早く整備・対応すべきまでを含めると、いずれの施設・対策も 60%以上となっており、防災・生活環境において十分な満足が得られていないことがうかがえます。



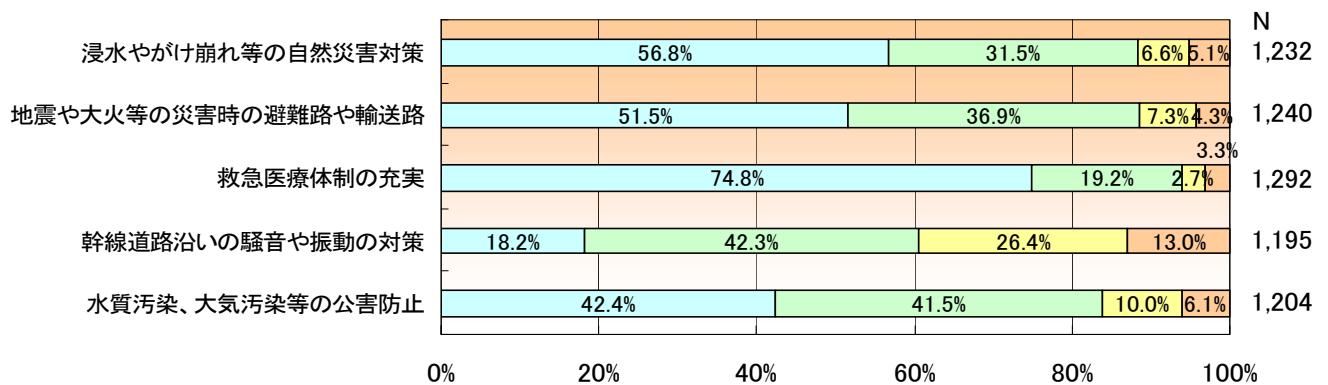
□ すぐに整備・対応すべき □ なるべく早く整備・対応すべき □ あまり急がなくて良い □ 現状のままで良い

図 4-1-18 道路・交通施設整備



□ すぐに整備・対応すべき □ なるべく早く整備・対応すべき □ あまり急がなくて良い □ 現状のままで良い

図 4-1-19 公園・緑地整備



□ すぐに整備・対応すべき □ なるべく早く整備・対応すべき □ あまり急がなくて良い □ 現状のままで良い

図 4-1-20 防災、生活環境

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

4 意向調査結果の整理

3) 自然環境・歴史文化資産に関して

- 『海岸』や『森林等の緑地』は積極的な保全が望まれていることがうかがえる
- 『歴史・文化資産』に関しては積極的な利活用が望まれていることがうかがえる

『海岸』や『森林等の緑地』に関しては積極的に保全すべきだと回答した人が約50%となっており、積極的に利活用すべきだと回答する人を上回っています。一方、『城山や崖の観音などの歴史文化資産』においては、積極的に保全すべきだと回答した人と積極的に利活用すべきだと回答した人が拮抗しています。

『田畑』に関しては、積極的に保全すべきだと回答した人と現状のままで良いと回答した人が拮抗しています。

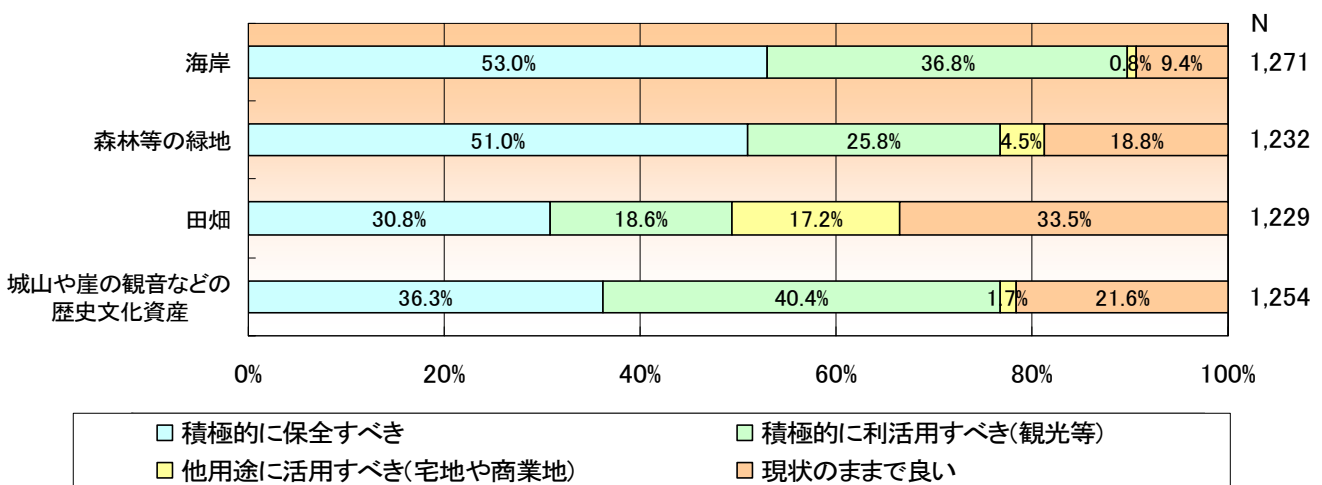


図4-1-21 自然環境・歴史文化資産

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合がある

4) 市内の景観について

- 海に関連した景観が上位に位置している
- ゴミや雑草等、日頃の意識や行動によって解決できるようなものが上位に位置している

館山市における景観についての意見は以下の通りです。

良い景観については、『鏡ヶ浦に沈む夕日、富士山』や『海や海岸線』等、海に関わる景観が上位に位置しています。

悪い景観については、『海岸のゴミや沿岸の建物・構造物』や『国道 127 号～410 号における雑草』等、日頃の意識や行動によって解決することが可能となるようなものが上位に位置しています。

表 4-1-6 良いと思う景観

出された意見(総意見:1,344)		意見数
1	鏡ヶ浦に沈む夕日、富士山	513(38.2%)
2	海や海岸線	196(14.6%)
3	城山公園、館山城	167(12.4%)
4	城山からの眺望	111(8.3%)
5	房総フラワーライン	59(4.4%)
6	平砂浦海岸	52(3.9%)
7	国道 127 号沿道の椰子並木	33(2.5%)
8	南欧風のまち並み	31(2.3%)
9	花のあるまち並み	24(1.8%)
10	崖観音からの眺望	20(1.5%)
その他	崖観音、沖ノ島公園、市内の山々、田園風景、市内の豊富な自然 等	

表 4-1-7 悪いと思う景観

出された意見(総意見:1,186)		意見数
1	海岸のゴミや沿岸の建物・構造物(海の家やテラポット等)	170(14.3%)
2	国道 127 号～410 号における雑草	168(14.2%)
3	屋外広告物や電柱	143(12.1%)
4	道路上のゴミや沿道の荒地等	108(9.1%)
5	北条海岸の景観	94(7.9%)
6	シャッターが降りたままの商店	68(5.7%)
7	ゴミ置き場やポイ捨て	59(5.0%)
8	商店街の景観(渚銀座、館山銀座等)	49(4.1%)
9	駅周辺の景観	38(3.2%)
10	南欧風の景観	34(2.9%)
その他	河川の景観、国道 127 号沿道の椰子並木、館山港周辺の景観、荒れた田畑、房総フラワーライン 等	

5) 都市計画マスタープランへの参加意識について

○『何らかの方法で計画に参加したい人』と『計画に参加する意思はない人』が拮抗している

都市計画マスタープランへの参加意識については、『計画段階から積極的に参加したい』『地区別懇談会等で計画案に対して積極的に意見を述べたい』と回答した人を合わせると約 45% となっています。一方で、『参加する意思はない』と回答した人は約 43% となっており、何らかの方法で参加したいとする人と拮抗しています。

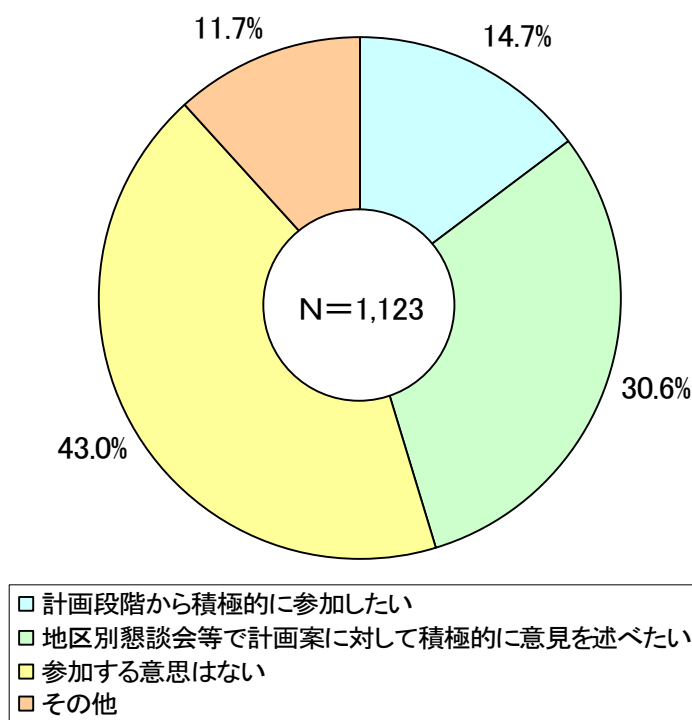


図 4-1-22 都市計画マスタープランへの参加意識

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

6) 将来、望むまちの姿

○日々の生活に関連した機能の強化を望む意見の他、観光都市のように人を呼び込むためのまちづくりを望む意見が多く出されている

『誰もが住みやすいまち』や『働く場があるまち』といった、日々の生活に関連した機能の強化を望む意見の他、『観光都市』といった市外の人を呼び込むためのまちづくりを望む意見が多く出されています。

表4-1-8 将来望むまちのイメージ(上位10意見)

	出された意見(総意見:1,680)	意見数
1	誰もが住みやすいまち	253(15.1%)
2	観光都市	240(14.3%)
3	自然を活かしたまち	233(13.9%)
4	働く場があるまち	138(8.2%)
5	若者が住めるまち	132(7.9%)
6	医療・福祉が充実したまち	85(5.1%)
7	活力のあるまち	72(4.3%)
8	自動車中心からの脱却(公共交通の利便性向上、歩けるまち)	68(4.0%)
9	商店街の活性化	65(3.9%)
10	暖かい心やモラル等、市民意識が高いまち	47(2.8%)
その他 (一部 紹介)	伝統と文化のまち	
	落ち着いたまち、静かなまち	
	花のあるまち	
	地場産業が活発なまち	
	現状のままで良い	

4 意向調査結果の整理

(4) 地区別にみた調査結果の分析

1) 那古・船形地区

- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『何らかの方法で計画に参加したい人』と『計画に参加する意思はない人』が拮抗している

・施設整備に関して

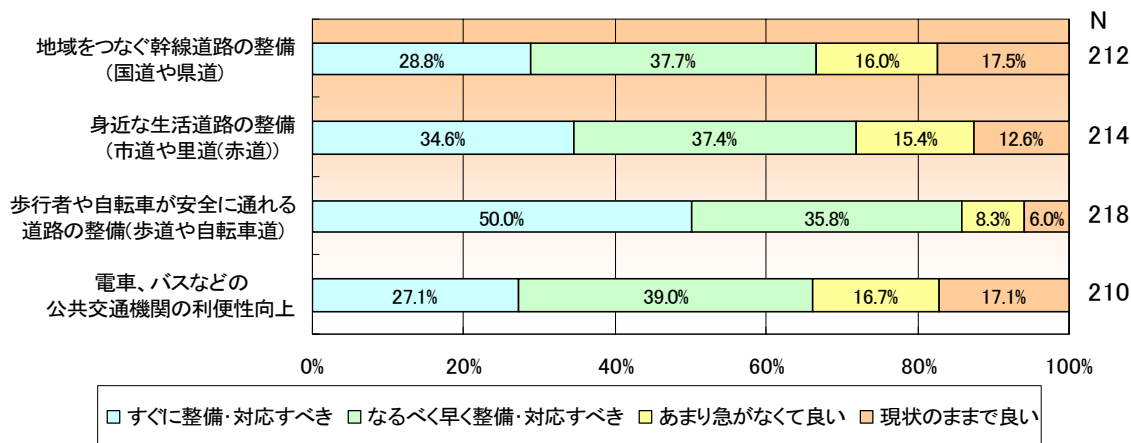


図 4 - 1 - 2 3 道路・交通施設整備

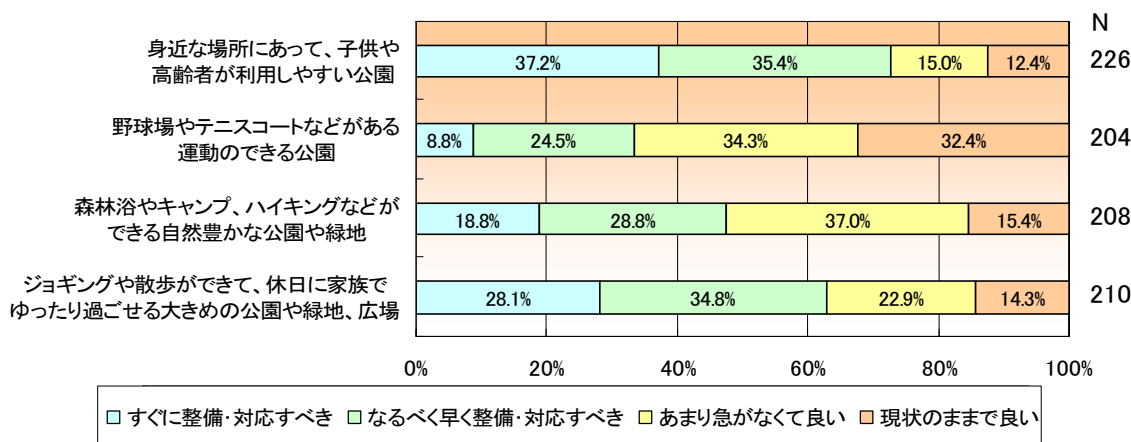


図 4 - 1 - 2 4 公園・緑地整備

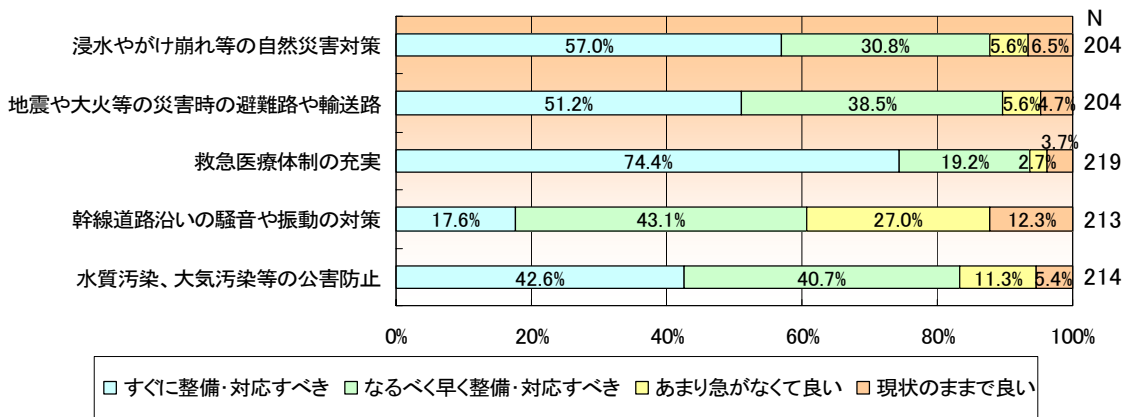


図 4-1-25 防災、生活環境

・都市計画マスタープランへの参加意識について

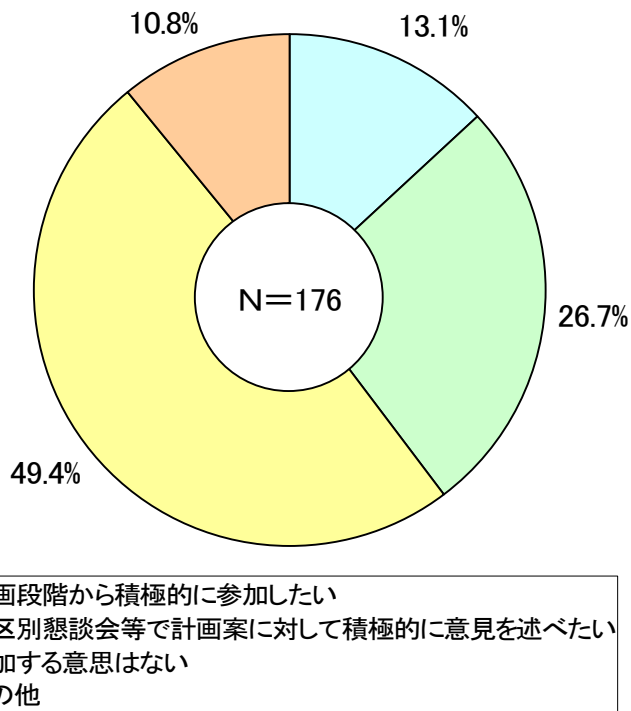


図 4-1-26 都市計画マスタープランへの参加意識

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

4 意向調査結果の整理

2) 北条地区

- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『何らかの方法で計画に参加したい人』と『計画に参加する意思はない人』が拮抗している

・施設整備に関して

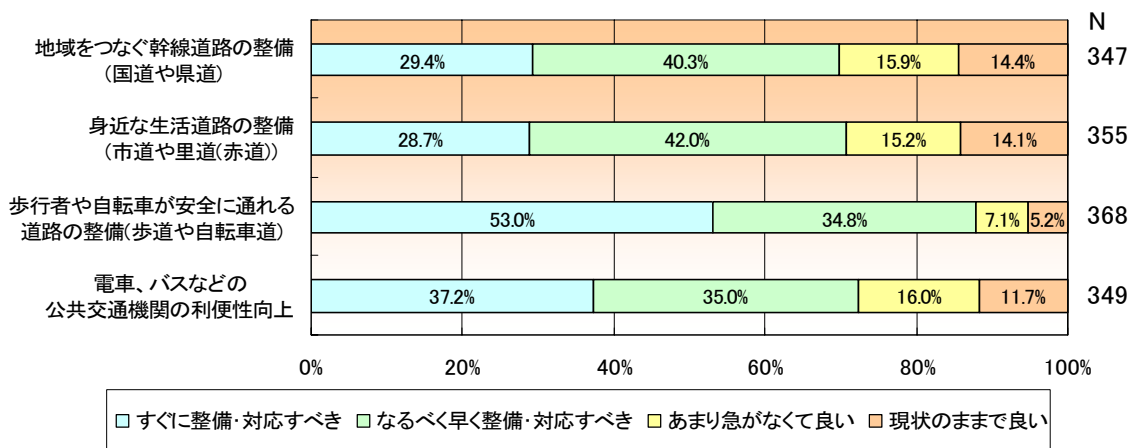


図 4-1-27 道路・交通施設整備

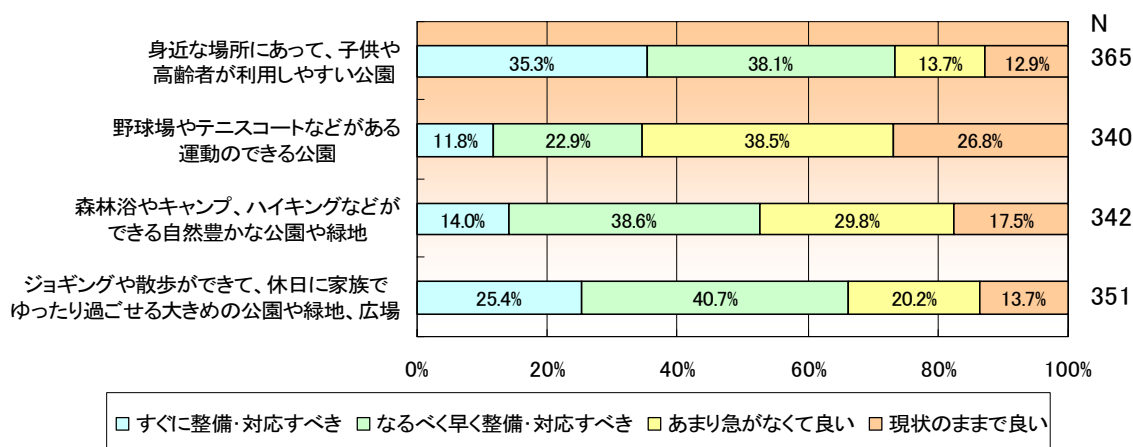


図 4-1-28 公園・緑地整備

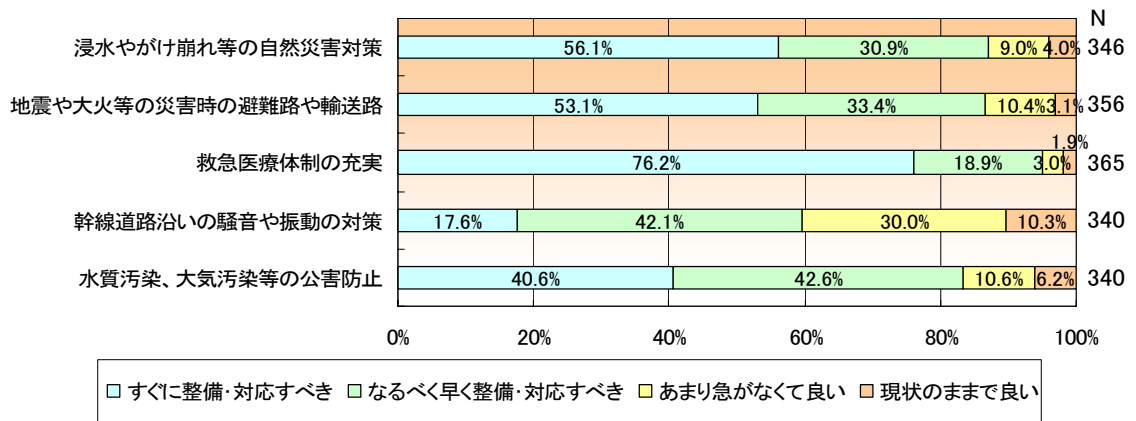


図 4-1-29 防災、生活環境

・都市計画マスタープランへの参加意識について

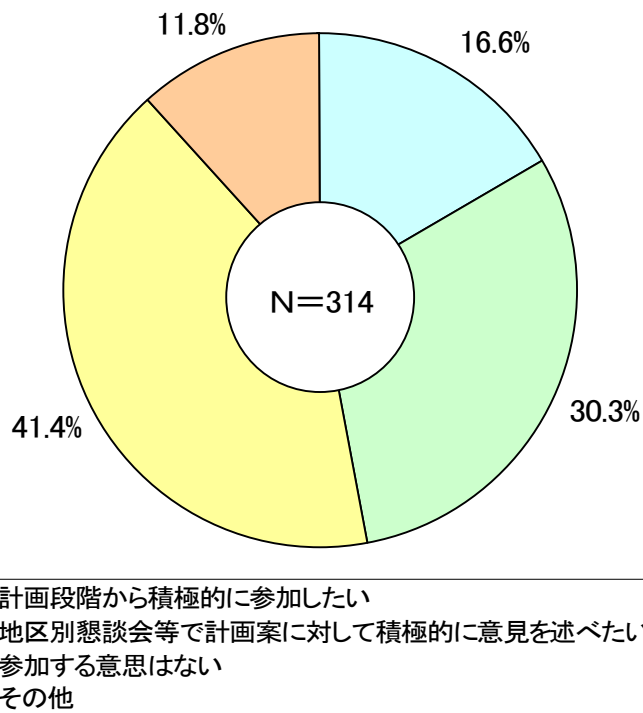


図 4-1-30 都市計画マスタープランへの参加意識

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

4 意向調査結果の整理

3) 館山地区

- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『何らかの方法で計画に参加したい人』と『計画に参加する意思はない人』が拮抗している

・施設整備に関して

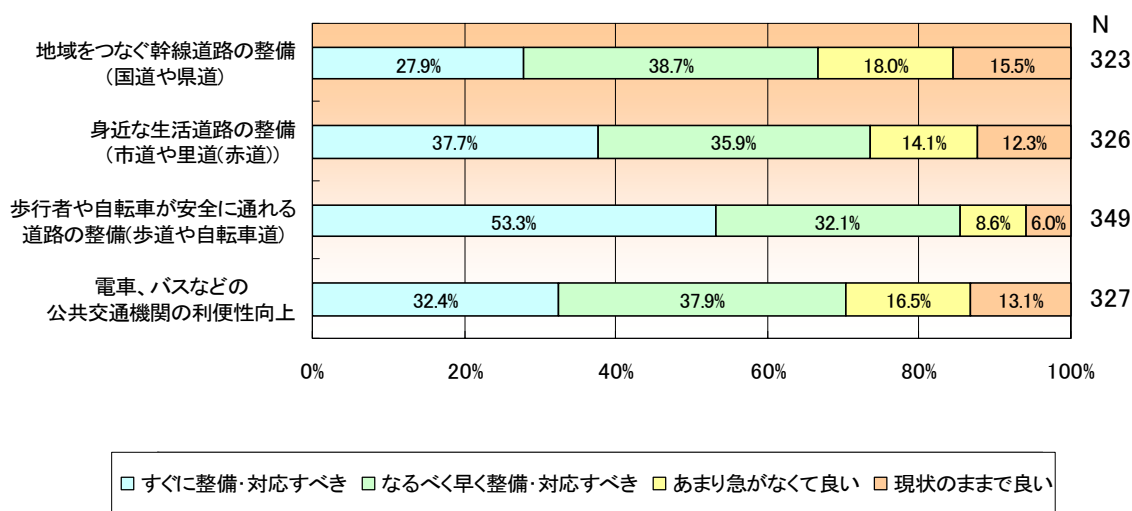


図 4-1-31 道路・交通施設整備

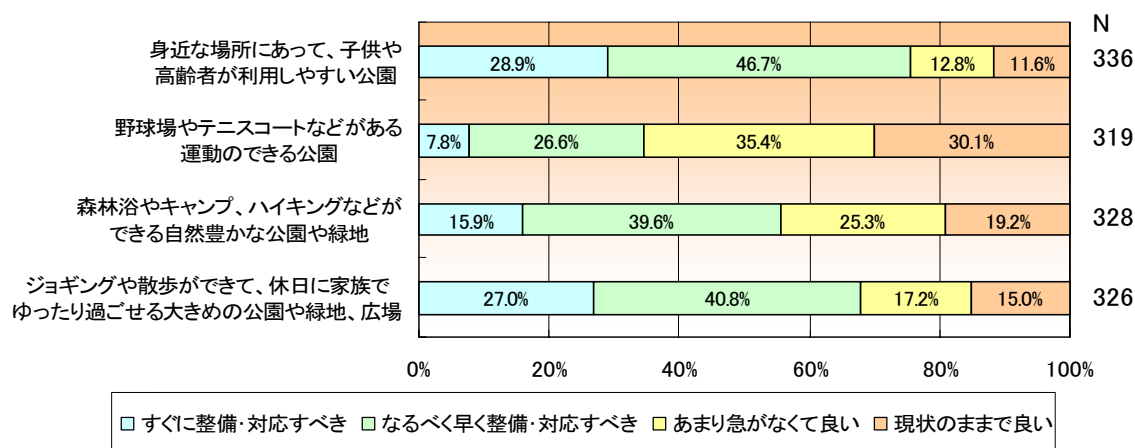


図 4-1-32 公園・緑地整備

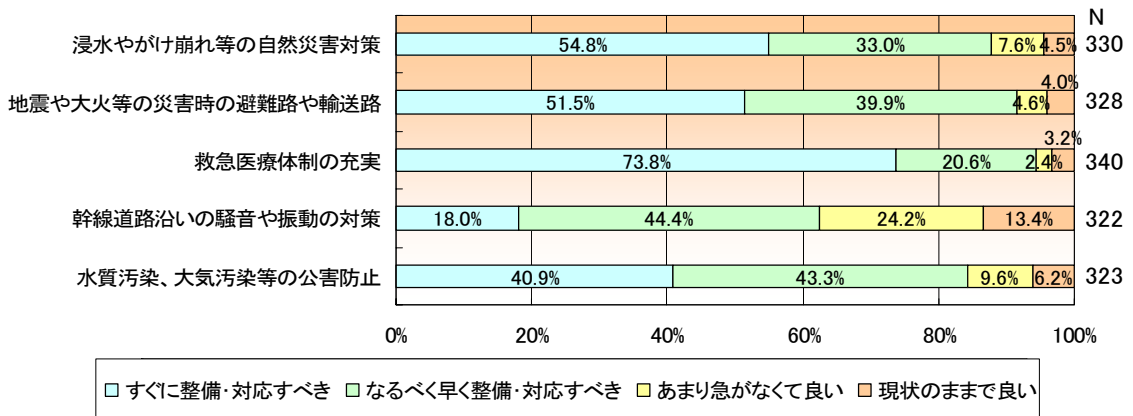


図 4 - 1 - 3 3 防災、生活環境

・都市計画マスタープランへの参加意識について

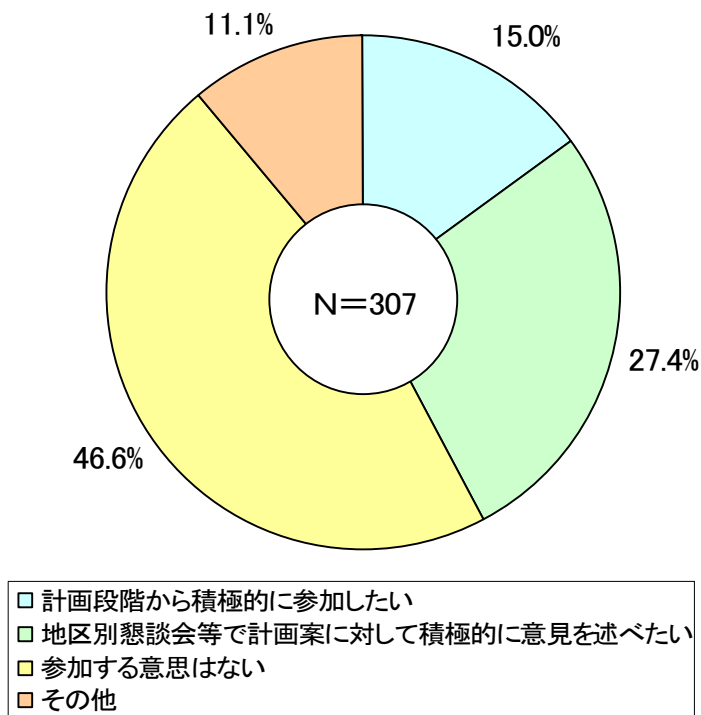


図 4 - 1 - 3 4 都市計画マスタープランへの参加意識

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

4 意向調査結果の整理

4) 豊房・館野・九重地区

- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『何らかの方法で計画に参加したい人』が『計画に参加する意思はない人』を上回っている

・施設整備に関して

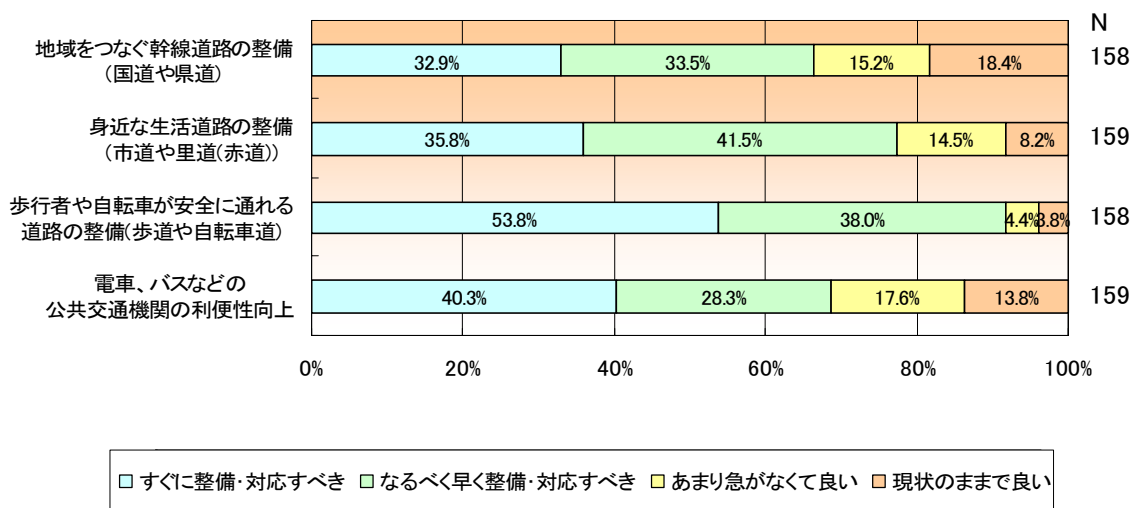


図 4-1-35 道路・交通施設整備

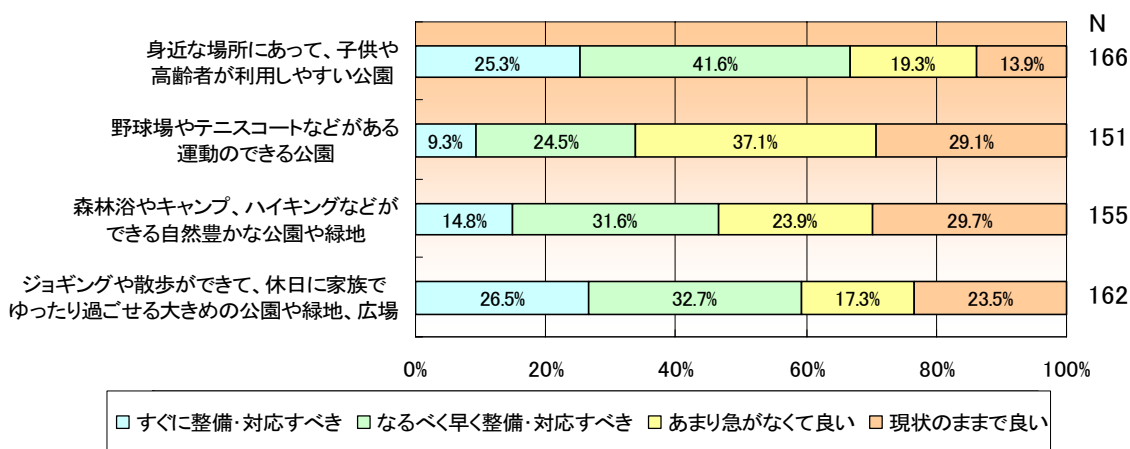


図 4-1-36 公園・緑地整備

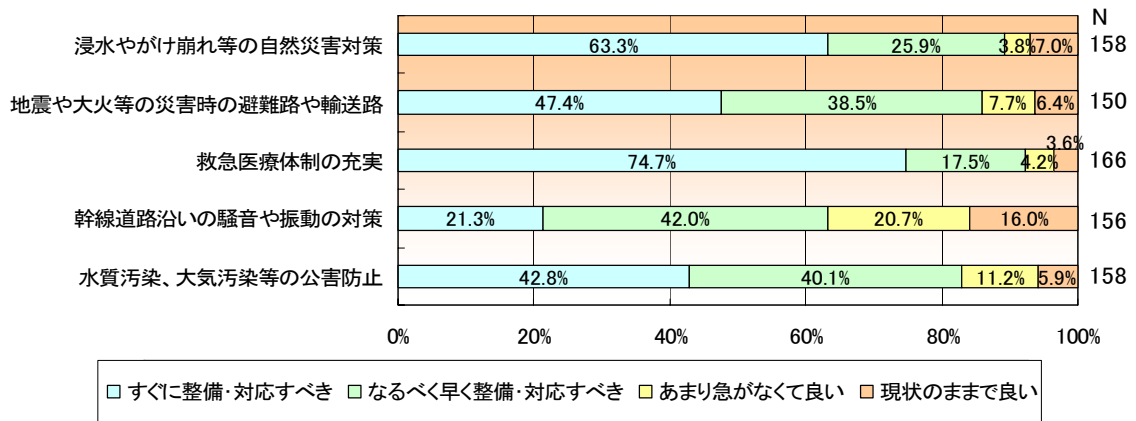


図 4-1-37 防災、生活環境

・都市計画マスタープランへの参加意識について

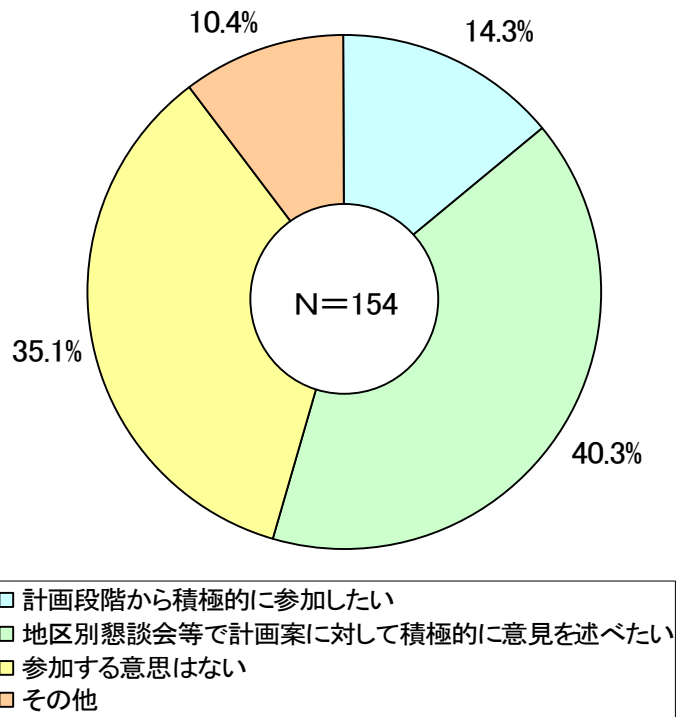


図 4-1-38 都市計画マスタープランへの参加意識

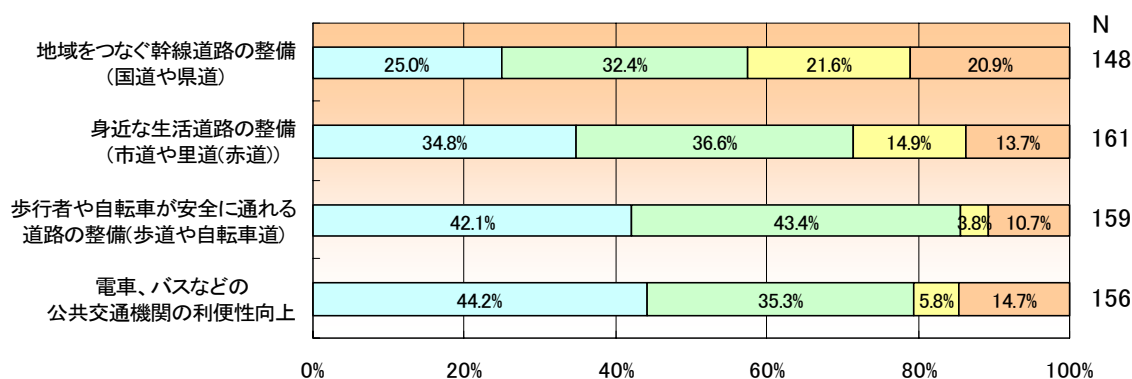
※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が100%にならない場合がある

4 意向調査結果の整理

5) 西岬・神戸・富崎地区

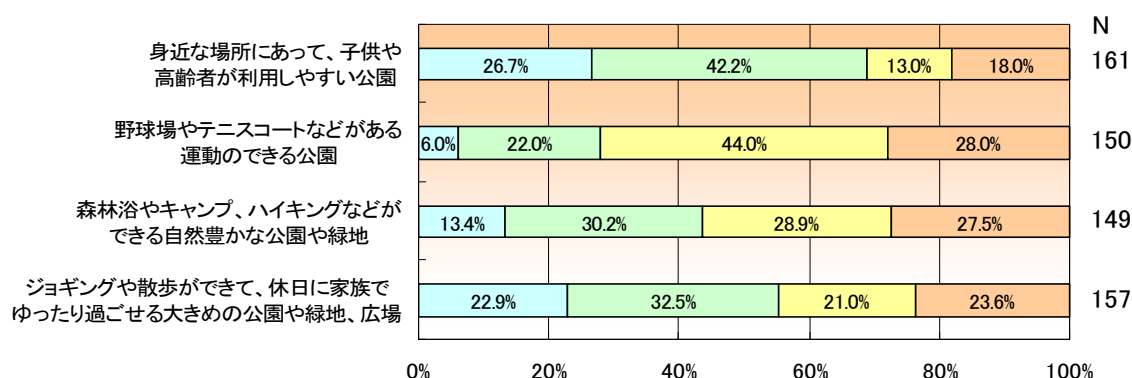
- 道路・交通施設に関して、十分な満足を得られておらず、特に『歩道や自転車道』の整備に関して早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』に関して整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 防災・生活関連施設に関して十分な満足を得られておらず、特に『救急医療の充実』の早急な整備・対応が望まれていることがうかがえる
- 『何らかの方法で計画に参加したい人』と『計画に参加する意思はない人』が拮抗している

・施設整備に関して



□ すぐに整備・対応すべき □ なるべく早く整備・対応すべき □ あまり急がなくて良い □ 現状のままで良い

図 4 - 1 - 3 9 道路・交通施設整備



□ すぐに整備・対応すべき □ なるべく早く整備・対応すべき □ あまり急がなくて良い □ 現状のままで良い

図 4 - 1 - 4 0 公園・緑地整備

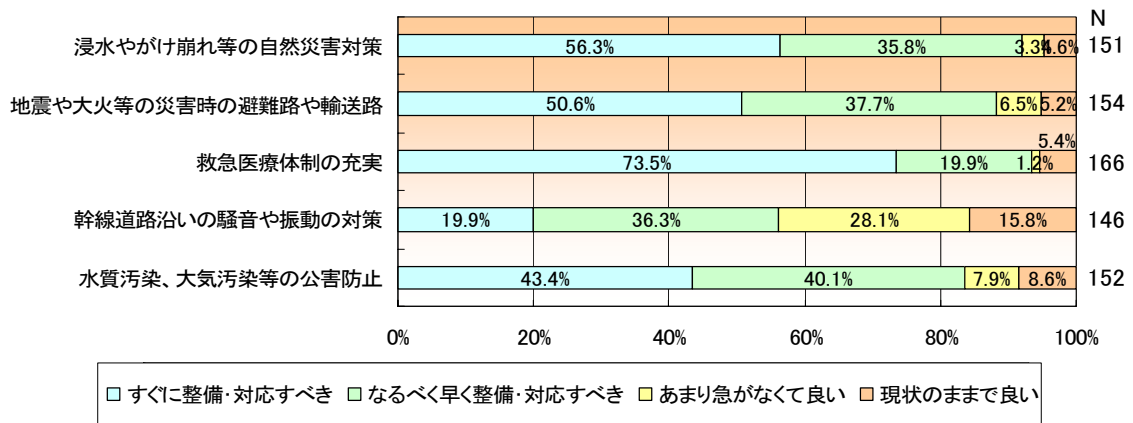


図 4-1-4 1 防災、生活環境

・都市計画マスタープランへの参加意識について

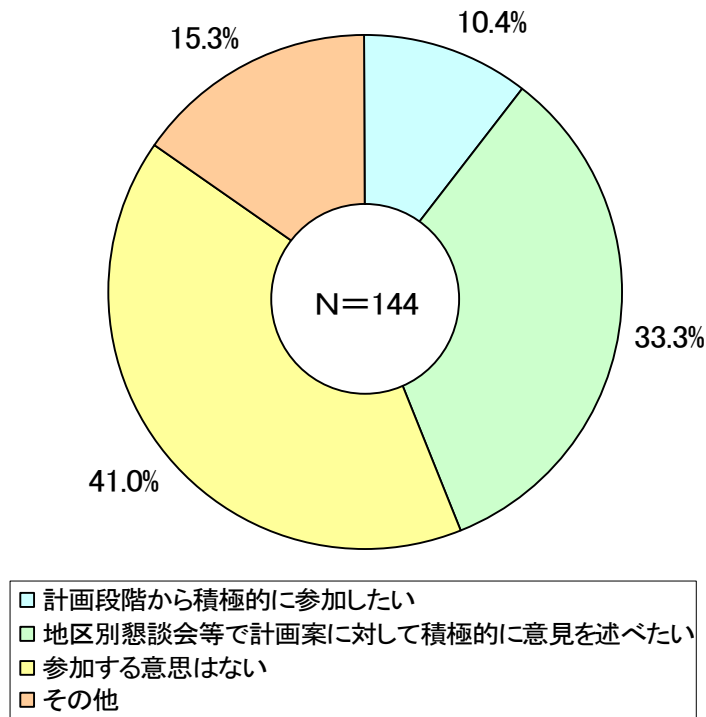


図 4-1-4 2 都市計画マスタープランへの参加意識

※四捨五入による端数処理のため、構成比の和が 100%にならない場合がある

(5) 市民アンケート調査結果の総括

市民アンケート調査結果の総括は以下の通りです。

表 4-1-9 調査結果の総括

日常の生活行動 について	○主な移動手段は車(自分の運転)であるが、将来的に車を運転できなくなった時の移動手段に対する不安を感じている	
	○年齢があがり車を運転できなくなっても、公共交通は利用されづらいことがうかがえる	
	○主な買い物先は近所の商店や市内の大型商業施設である。また、館山駅周辺の商店街の活性化が望まれている。	
	○余暇活動を過ごすための施設整備が望まれている	
施設整備 について	○『歩道や自転車道』等の道路整備や『電車・バス等の公共交通機関の利便性向上』の対応が望まれている	
	○『身近に利用しやすい公園』や『ゆったり過ごせる大きめの公園や広場、緑地』の整備・対応が望まれている	
	○『救急医療の充実』の整備・対応が望まれている	
自然環境・歴史文化資産について	○『海岸』や『森林等の緑地』の積極的な保全、及び観光資源として『歴史・文化資産』の積極的な利活用が望まれている	
景観について	良い景観	○海に関連した自然景観が上位に位置している
	悪い景観	○ゴミや雑草等、日頃の意識や行動によって解決できるものが上位に位置している
将来望むまちのイメージについて	○日々の生活に関連した機能の強化を望むほか、観光都市のように人を呼び込むためのまちづくりを望んでいる	

4-2 地区別懇談会及び団体懇談会等

(1) 市民との地区別懇談会及び団体懇談会によるまちづくり意向の整理

今後のまちづくりにおいて主体的な役割を果たす本市の市民や、本市に所在する各種団体を対象として、『本市のまちづくり』に係わる発言機会を設けました。

1) 第1回懇談会

○都市計画マスタープランへの要望

- ・ 行政と市民が協働で取り組んでいける方針の導入
- ・ 沿道地区に配慮した、観光立市につながるような道路整備
- ・ 館山オリジナル(景観や歴史・文化等)なマスタープラン
- ・ コンパクトシティの実践

○地区の整備に関する要望

- ・ 将来に向けて真に必要な道路の整備
- ・ 地区に所在する資源(港や歴史・文化資産等)を活かしたまちづくり
- ・ ある程度的生活関連施設の充実や、まちの賑わいを担保して欲しい
- ・ 地区の特性に配慮した景観形成

第1回地区別懇談会及び団体懇談会の概要は以下の通りであり、出された主な意見を次頁に示します。

表4-2-1 第1回懇談会開催概要

	開催日時	開催場所	参加人数
地区懇談会(館野地区)	H20年 1月15日(火) 19:00~21:00	館野公民館	9人
地区懇談会(九重地区)	H20年 1月22日(火) 18:30~20:00	九重公民館	10人
地区懇談会(那古地区)	H20年 1月23日(水) 18:00~19:30	那古寺千手院	26人
地区懇談会(西岬地区)	H20年 1月24日(木) 13:30~15:00	西岬東地区公民館	18人
地区懇談会(船形地区)	H20年 1月25日(木) 19:00~20:30	若潮ホール 会議室	54人
地区懇談会(豊房地区)	H20年 1月26日(土) 18:30~20:00	豊房地区公民館	16人
地区懇談会(富崎地区)	H20年 1月28日(月) 13:30~15:00	富崎地区公民館	8人
地区懇談会(北条地区)	H20年 1月29日(火) 19:00~20:30	館山市コミュニティセンター第1集会室	50人
地区懇談会(館山地区)	H20年 1月30日(木) 19:00~20:30	館山地区公民館	39人
地区懇談会(神戸地区)	H20年 2月 1日(金) 19:00~20:30	神戸地区公民館	18人
団体懇談会(その1)	H20年 2月 6日(水) 13:30~15:30	市役所2号館2階会議室	9人
団体懇談会(その2)	H20年 2月 8日(金) 19:00~21:00	市役所本館2階会議室	12人

※団体懇談会(その1): 館山市観光協会、館山青年会議所、安房農業共同組合、県建築士事務所協会安房支部、西口まちづくり協議会、NPO南房総IT推進協議会

団体懇談会(その2): 館山商工会議所、館山商店会連合会、館山女性会、館山青年部、海辺のまちづくり研究会、NPO海辺のまちづくり塾、NPO文化財・戦跡保存活用フォーラム

表4-2-2 第1回地区別懇談会での主な意見・要望

	都市計画マスタープランへの意見・要望	地区の整備に関する意見・要望
那古地区	用途地域や都市計画道路の見直し	雨水排水対策(那古下水路整備) 現状に即した用途の適正な配置(白地への用途指定) 都市計画道路那古・正木線の見直し 那古寺の景観を活かした、特色のある地域づくり(高さ制限を含めたルール作り)
船形地区	(仮称)船形バイパスの早期実現、及び都市計画マスタープランへの位置づけ	港を活かし、賑わいを取り戻したい(将来道の駅) 用途変更について、土地利用を誘導する施策及び十分な地元説明 排水整備の早急な対策(大塚地区)
北条地区	観光立市を目指すのであれば、そのコンセプトに基づいたまちづくりを進めるべきである 館山の玄関口である館山バイパスの景観形成をしっかりとすべき	都計道八幡高井線は地権者にとって負担になる。土地が自分の土地であって自分の土地ではない状態。早急な見直し(廃止)をお願いしたい
館山地区	道路整備に併せて市内に人を誘導できるようなまちづくり施策が必要 道路整備は沿線の住民の利害を考慮	通過交通を減少させるために、都市計画道路青柳大賀線の整備 青柳大賀線の計画線を山側ルートへ変更 沖ノ島公園への安全・安心な道路の整備 棧橋だけでなく棧橋界隈に市民が憩えるような、公園に順ずる施設を整備
豊房地区	長期未着手である都市計画道路の検証と見直し	市街地部の電線地中化等による山並み景観への配慮
館野地区	実現化が図られるものを位置づけて欲しい	国道128号の渋滞対策、及び安全・安心な歩行空間の確保 滝川の災害対策、及び景観形成
九重地区	行政と市民が協働で取り組んでいく方針の導入	隣接市との景観の違いの解消 農地にかかっている規制の除外
西岬地区	市全体のまちづくりの方向性と、地区のまちづくりの方向性との調整を図りながら策定して欲しい	ある程度の生活関連施設の充実や、まちの賑わいを担保して欲しい 安全・安心して暮せるまちにしてほしい 青柳大賀線の整備や公共交通の充実による、観光振興への展開
神戸地区	新たに計画を実施していく際には、その計画によって起きる弊害を十分考慮して欲しい	安房神社や小塚大師、野鳥の森等の資源のアピール及び有効活用
富崎地区	古い都市計画道路は見直しを行うべき。市民の生活に必要で、観光立市につながるような道路を整備してほしい	特になし

表 4-2-3 第 1 回団体懇談会での意見・要望

都市計画マスタープランへの意見・要望
利用者の視点に立ち、既存の道路、公園を充実させる
情報通信都市たてやまとして、情報通信のインフラ整備を計画に位置付け
用途地域の見直しが必要
都計道を廃止するのならば、早急な廃止を望む
館山の持っている魅力やオリジナリティを計画に入れて、歴史性をマスタープランの骨格に入れる
景観や自然文化資産を生かすことがマスタープランの理念
人口の減少や高齢化等の社会現象をマスタープランに織り込む(ユニバーサルデザイン等)
「市民が主役でまちづくりをどうしたいか」が重要
将来の車社会の変化とコンパクトシティを意識した都市計画
長期間をかけ中心市街地にコンパクトに集める。選択と集中
南欧風の借り物の街づくりはやめて、館山や南房総のオリジナリティを景観の考え方にいれる
必要な道路は決定し、不要な道路は大胆に廃止。必要な道路に集中させれば住民の同意は得られる
工場用地の需要予測の基で、工場専用地の確保
地区の整備に関する意見・要望
城山公園の機能充実(売店等)
西岬地区の観光トイレ
富浦から船形漁港に向けた道路整備が必要
館山駅から市役所、国道 127 号への接続道路の整備
北下台を安全機能上及び公園として見直し
赤山は船形館山港線ともぶつかっている。公園と道路計画を見直してもらいたい
八幡北条線の扱いについては、地元と十分な協議をして欲しい。歩道をつけるだけでも商店街は十分活用できると思う
工業団地等を農業団地として果樹園、観光農業等、製品の生産、生産性を持ったエリアにしてはどうか(農業高校の活用)
その他
レトロ調な街並み再現しようとする場合、準防火地域がネックとなる
景観形成のための屋外広告物の規制には美観、統一が大事
海岸道路と国道 127 号を結ぶ間に計画道路は、無くてもよい計画道路がある
都市計画マスタープランでは、地域に住んでる人がどれだけ満足するかというところに重点をおく
狭小道路に集中する高速バスのルート見直し。高速バスを西口へ
城山公園の「道の駅」化、更なる整備
赤山の管理等に関わる、都市計画課、生涯学習課、公民館の関係部課により意見交換の場を設けてほしい
過去 40 年、道路が出来なかった理由、教訓をまとめておく必要あり
計画の見直し等のシステムを作る
歩道整備は買物の環境とまちの活性化につながる。まちの活性化を第一に考えて欲しい

4 意向調査結果の整理

2) 第2回懇談会

○都市計画マスタープランへの意見・要望

- ・歩いて暮らせるまちづくりを実現して欲しい
- ・交通施策（移動手段やバス停整備等）を充実して欲しい
- ・観光振興に資する施策を考えて欲しい
- ・地産地消を進めて欲しい
- ・整備スケジュールを示して欲しい

第2回地区別懇談会及び団体懇談会の概要は以下の通りであり、出された主な意見を次頁に示します。

表4-2-4 第2回懇談会開催概要

	開催日時	開催場所	参加人数
地区懇談会(北条地区)	H20年12月12日(金) 18:30~20:00	館山市コミュニティセンター	16人
地区懇談会(船形地区)	H20年12月18日(木) 18:30~20:00	若潮ホール	29人
地区懇談会(那古地区)	H20年12月19日(金) 18:30~20:00	那古千手院	12人
地区懇談会(西岬地区)	H20年12月25日(木) 13:30~15:00	西岬地区公民館	18人
地区懇談会(館野地区)	H21年1月13日(火) 18:30~20:00	館野地区公民館	7人
地区懇談会(富崎地区)	H21年1月14日(水) 13:30~15:00	富崎小学校体育館	5人
地区懇談会(神戸地区)	H21年1月16日(金) 18:30~20:00	大神宮集会所	54人
地区懇談会(館山地区)	H21年1月22日(木) 18:30~20:00	館山地区公民館	19人
地区懇談会(豊房地区)	H21年1月23日(金) 18:30~20:00	豊房地区公民館	10人
地区懇談会(九重地区)	H21年1月26日(月) 18:30~20:00	九重地区公民館	8人
団体懇談会(その1)	H21年1月30日(金) 10:00~12:00	館山市コミュニティセンター	18人
団体懇談会(その2)	H21年2月9日(月) 13:30~15:40	市役所本館2階会議室	14人

※団体懇談会(その1): 館山商工会議所、館山市商店会連合会、館山市観光協会、安房農業共同組合、館山青年会議所、県建築士事務所協会安房支部、海辺のまちづくり研究会、NPO 海辺のまちづくり塾、NPO 安房文化遺産フォーラム

団体懇談会(その2): 館山商工会議所、館山銀座商店街振興組合、北条海岸振興会、本通り商業会、館山市商業共同組合、館山市商店会連合会、長須賀商業会

表 4-2-5 第2回地区別懇談会での主な意見・要望

	都市計画マスタープランへの要望
那古地区	都市計画マスタープランの中で、市民グラウンドを公園として位置づけて欲しい。
	健人館は地元農家で収穫された作物を商品としており、観光客との交流も行われている施設である。健人館を都市計画マスタープランの中で交流に資する施設として位置づけることはできないのか。
船形地区	船形漁港において、観光振興に資する施設整備を考えて欲しい。
	海の美化に関する位置づけを計画に盛り込んで欲しい。
	船形地区のような住宅密集地で狭い宅地こそ下水道が有効である。終末処理場を中心に処理区域を拡大していくのではなく、整備効果の高いと思われる地区は、その地区ごとに下水道を整備して欲しい。
北条地区	快適な居住環境、観光振興、企業誘致等を計画に織り交ぜて欲しい。
	地元市民が潤うために、地産地消を進めていくことが必要。
	今後、都市計画マスタープランをどのように活用していくのか。市民と行政の役割を明確にするべき。
館山地区	歩いて暮らせるまちづくりの実現(歩道の整備、踏切改良)、青柳大賀線の整備等、市民の生活利便性を考慮した道路整備。
	海岸部の環境整備(砂浜に停泊している釣り船への指導及び係留所への誘導)。
豊房地区	農業振興に関する取り組みを記載して欲しい。
館野地区	整備スケジュールのようなものを示して欲しい。
	歩いて暮らせるまちづくりをテーマとして計画を進めていって欲しい。
九重地区	休耕田等の農地について、具体的な利用方策を示して欲しい。
	九重駅周辺の歩行空間整備など、実現に向けて動いて欲しい。
西岬地区	波左間地区を観光拠点に位置づけて欲しい。
	西岬地区が今以上に衰退しないような施策を打ち出して欲しい。
神戸地区	過疎地域における足(移動手段)の問題を考慮して欲しい。
	交通施策(移動手段やバス停整備)を充実させて欲しい。
	産業分野において農業の記載をして欲しい。 来訪者だけが恩恵を受けるのではなく、地域住民の生活を考えた計画にして欲しい。
富崎地区	過疎地域における足(移動手段)の問題を考慮して欲しい。
	道路整備について、新しい道路を作らずとも、既存の道路改良で対応できないのか
	景観形成について、漁村の原風景を守ろうとしても、景観まで考えていられない。今の生活を守るので精一杯。また、眺望権を訴えても勝てないのではないのか。

表4-2-5 第2回団体懇談会での意見(1/2)

都市計画マスタープランへの要望
地産地消に加え、バイオマスの利活用(微生物を利用した堆肥の製造、土壌改善)に関する記述も追加してもらいたい。
「持続可能な地域社会の形成」ということばを記述に加えてもらいたい。
市役所裏の道路(市道1001号線)の整備に関する記述を追加してもらいたい。また、同路線を将来道路網図に示してもらいたい。
「歩行系交通機能の強化」の対象に自転車を含め、そのことが分かるように記述の修正をしてもらいたい。
パーク・アンド・ライド駐車場については、双方向性(市から出て行く場合の利用と、市に入ってくる場合の利用があること)を意識した記述としてもらいたい。
地球温暖化対策に関する記述を、もっと大きく取り扱ってもらいたい。
「ちば遺産100選」や「ちば文化的景観」を記述に加えてもらいたい。
「崖の観音」は「崖の観音(大福寺)」が適切である。
登録文化財が無い地区については、地域別構想の中の「指定文化財や登録文化財」の部分を「指定文化財」に改めるべきだ。
プランの実現に向けた工程表を示してもらいたい。
10年以内に出来ない道路は、都市計画道路の指定から外すべき。
館山の中心に入る都市計画道路を廃止しておいて、どうしたら観光客等が館山の商店街を回遊してもらえるのか。
これから先、人口が減少しようと、街の中心の幹線道路には両側歩道が必要である。
館山の中心は、郊外から定住者を導入し、安心して歩いて暮らせるまちづくりを進めるためには歩道抜きにはできない。そういう道路をつくるには一番地域にとって費用を掛けないで早期にやれる方法を選択する必要がある。
単に都市計画道路を廃止するのではなく、観光客などが八幡神社～千葉銀～北条棧橋～商工会議所～八幡と、口の字に回遊できるまちづくりが必要。実現すれば商店街にも人が入ってくる。
北条海岸は館山の顔であり、館山バイパスの椰子は南房総のイメージである。これを守り育てることや、イメージを壊さないためには景観条例を制定するということが必要。
地域高規格道路が実現すると、木更津のように道路の上に地域高規格道路が乗るかもしれない。観光地・館山としては避けなくてはいけないので、先に景観条例を作り景観を守る必要がある。
バスを西口から発着させることで果たして市民が便利になるのか。バスがぐるっと廻り道をするのではないか。人口が5万人未満のまちなので、西口も東口も均等に発展させることはちょっと無理ではないか。もう少し東口を整備したらどうか。
駅前については地主の協力を得られればもっとよくなると思う。実利のある開発方法を考えて頂きたい。
駅前のロータリーの所の駐輪場付近は道路拡幅して、バスの誘導に相応しい、ロータリーの形成とかについて、マスタープランで考えはないのか。
緊急の財政出動により様々な事業があるので、マスタープランが実行出来るように、よく情報を聞いて少しでも予算がつくように的確な申請を行っていただきたい。
今回12路線中の8路線が廃止ということなので、実施計画のない又は実施できていない道路というのはまったく百害あって一利なしで、経済の活性化に非常にマイナスになる。今回、廃止という形には安心している。
実施計画といかないまでも20年の年次計画や短期、中長期の実施計画がないと、ただ良い冊子で終わってしまう。少しでも実施できるものをつくって頂きたい。
この計画は市の、市民のための計画なのか、外部からの人を入れるための計画なのか、そこを真剣に考えないとだめである。
将来郊外にミニ開発されたら、行政がインフラ整備を後追いすることになると思う。まちの中心に先行投資してインフラ整備を行ったほうがよいのでは。
市役所、警察、病院とかは中心市街地ではないが、特別郊外ではない、集約的な都市になっていると思う。改めて市役所を駅前に持ってくるのかそういう必要はないと思います。
銀座通りと駅までの道の間に歩道を一本造れば、それを起爆剤として相当よくなると思う
循環バスはすぐに来れると思う。出来るものからなんとかしてもらいたい。生活に密着したマスタープランでなくてはならない。過疎地にいる人間としては切実な要望です。

表 4 - 2 - 6 第 2 回団体懇談会での意見 (2/2)

その他
大型店の規制(休日の設定、営業時間の短縮など)を検討してもらいたい。
南欧風リゾート景観の形成を推進するため、補助制度の創設を検討してもらいたい。
北下台を(公園として)整備してもらいたい。
渚の駅、城山、赤山周辺の活用(サイクリングコース、文化財)と都市計画道路青柳大賀線の整備がかち合わないようしてもらいたい。
農業への法人進出に関し、市がチェックできるような条例の制定を検討してもらいたい。

(2) 市職員を対象としたまちづくり意向の整理

今後の都市づくりにおいて主体的な役割を果たす本市の職員を対象に、『本市のまちづくり』に係わる発言機会を設け、市民及び市職員の立場からまちづくりに対する意見交換会を行いました(平成19年9月7日に実施、出席者10名)。

会議は事前に配布していた質問用紙に基づき、各設問に対して発表形式で進めました。主な意見については、次頁に示す通りです。

○館山の良いところ

- ・明るく温暖で、恵まれた自然環境があるまち
- ・歴史・文化資産や多彩なイベント等、人が集まる要素を持っているまち

○館山の悪いところ

- ・道路・交通施設機能が乏しい
- ・豊富に資源を持っているが、観光の目玉がない
- ・若者が流出してしまい、まちづくりのマンパワーが不足

○館山の将来像

- ・観光・商業・農業・工業・漁業でバランスのとれたまち
- ・安心して暮らせる、災害に強いまち
- ・首都圏との立地関係や自然、気候等を活かしたまち

○まちづくりの課題

- ・館山駅周辺の中心市街地とバイパス沿道とのバランス
- ・『南欧風』と『館山らしさ』をすみ分けた景観形成
- ・地域コミュニティの希薄化、及び市民をまきこんだまちづくり方策の検討
- ・高齢化を見据えた都市基盤整備や公共交通の発達

○将来の館山市の、まちづくりの実践

- ・市民をまきこんだまちづくり
- ・市街化の進展に対する規制、及び将来を見据えたまちづくり
- ・高齢化を見据えたまちづくり

《館山市のイメージ》

良い所

恵まれた自然環境(冬暖かい、海あり山ありで自然が豊富、新鮮な魚)	花火大会等大きな催し物があり、人が集まるイベントがある
明るく温暖で、南国的なイメージ	割と大きな風水害が起こりにくい
駅周辺の景観(西口の南欧風、東口の生垣)	今のままでも何となく暮らしていける
比較的大きな商業施設が立地している	歴史・文化資産が豊富
寿司屋が多い	人情があり、温かい人柄
民宿が多い	海上交通がある
高速バスが発達している	

悪い所

地元住民の人間関係が密すぎる反面、外部の人に対して閉鎖的で、穏やかそうでいて実は厳しいため、発展しない	市民と行政が協働できていない
まちづくりのマンパワー不足	観光の目玉がない
公共交通の利便性に乏しい	資源が豊富であるがために、何をしたいのか定まらない
若者が働く場が少なく、市外へ流出してしまう	首都圏から遠い(田舎である)
欲しいものが近くで手に入らない	若者が遊ぶ場所が少ない
道が狭い、歩道がない	市街地が全体的に綺麗じゃない
	高齢化や人口減少

《館山市の将来像》

どのようなまちになれば良いか

第1次産業を主とした、安全な食を提供できるまち・自給率の高いまち	首都圏との立地関係や自然、温暖な気候を活かしたまち
観光・商業・農業・工業・漁業でバランスのとれたまち	自分たちのまちを誇れるようなまち
安心して暮らせるまち	災害に強いまちづくり

主軸となる分野

ゴミや不法投棄の問題等、自分の生活のまわりの環境を良くする	第1次産業の安定化による第1次産業の雇用促進
学校教育等でもっと深く館山を理解させるようにする	住工の混在解消による、住環境の向上
環境、道路、雨水排水、医療施設等の生活基盤の整備促進	観光産業の強化による、集客力の向上
歴史・文化を感じられるようにする	館山銀座のファサードの統一
企業誘致	観光産業による都会との交流人口の増加
	定住者を増やす

《まちづくりの課題》

館山駅周辺の中心市街地とバイパス沿道とのバランス(館山駅周辺の中心市街地としての機能維持なのか、バイパスを中心市街地化していくのか)	地域コミュニティの希薄化
安房圏において、館山が埋没してしまっている	市民の、まちづくりへの理解の向上
まちづくりへバイオマスタータウンの考え方を反映	高齢化を見据えたハード整備
『南欧風』と『館山らしさ』との住み分け	市民のまちづくりへのやる気
第1次産業の就業者不足	情報発信(ネットワーク化とまちのPR)
公共交通の発達	庁舎や学校、一般住宅の耐震化の遅れ
若者の流出	館山駅西口や北条海岸の活性化
	財政

《将来の館山市の、まちづくりの実践》

まちづくりとは何なのかを市民に周知してもらう(地域コミュニティづくりもまちづくり)	将来の市町村合併を見据え、10万人都市を意識したまちづくり
高齢者等の交通弱者のための循環バス等の整備	20年後にまちづくりをしていく後世が、館山市に誇りを持てるような教育
自分のまちを知り、愛するものを慈しみ、まちづくりをするという意識づくり	どうやっていったら商店街が元気になっていくのかを模索し続ける
市街化の進展に対する規制	高齢者に配慮したまちづくり
市民をまちづくりの土俵にあげる	計画したものは確実に実践していく
市営住宅跡地の活用	市民主導で、行政がコントロールするまちづくり
観光産業に力を入れる	集中的なハード整備

